社会福祉法人万葉の里　令和６年度　事業報告

Ⅰ.令和６年度　事業総括 …… 1

Ⅱ. 障害者センター事業部門 ……2
障害者センター事業部門全体総括
1. 地域活動支援センターつばさ ……4
2. 生活介護事業　太陽 ……10
3. 自立訓練事業（生活訓練・機能訓練）はばたき ……13
4. 就労継続支援事業Ｂ型　どーむ ……16
5. 短期入所・日中一時支援事業えんじゅ……19
6. 保健衛生事業 ……22

Ⅲ.KOCO・ジャム事業部門 ……25
KOCO・ジャム事業部門全体総括
1.生活介護事業この里 ……27
2.共同生活援助事業　ケアホームひかり ……31
ケアホームこの葉
3.KOCO・ジャム短期入所事業 ……33
4.居宅介護事業ウイング ……35

Ⅳ.基幹相談支援センター部門 ……37

Ⅴ.法人全体事業 ……44

Ⅵ.理事会・評議員会等 ……47

巻末資料：令和６年度　障害者センター利用状況一覧……48
令和６年度　KOCO・ジャム利用状況一覧

Ⅰ　事業総括

「令和６年度上半期事業報告書」では、(1)事業運営、(2)予算執行状況、(3)人材育成の３点について記した。本報告書でも、下半期の経過とともに、先の３つの項目について報告する。

(1)事業運営

上半期報告書では、計画の進捗について、事業間にバラつきがある旨を記した。進捗が芳しくなった事業の一つである「就労継続支援事業」では、中期計画において「業務整理」、事業計画では利用者への工賃還元を課題として挙げていた。下半期では、スタッフ会議でアィディアを出し合い、運営会議では、その内容について意見交換を行い、試行錯誤をしながら進めた。結果、清掃業務では利用者全員で行うこと、そしておにぎり販売に取り組んだ。おにぎり販売では、具材について利用者と一緒に考え、型を活用しておにぎりをつくり、それを販売し、利用者が工程に関わる機会を増やすことに繋がった。これらの取組を通し、計画の遂行に努めた。それとともに、利用者数、所属職員数等の観点から、計画遂行の事業間バラつきを解消することを目指し、令和７年度より、課の編成を変更することとした。事業間の進捗のバラつきについては「事業継続計画策定」についても同様に発生した。これもまた拠点の特徴によるものと思われる。KOCO・ジャム拠点に所属するケアホームでは、災害発生時は勤務職員が少人数であることが予想され、事業を継続するための応援体制、ライフラインが止まることを想定しての初動備品の設置等、所属職員より活発な意見がだされ、計画書の周知、理解に繋がっている。国分寺市障害者センターは、指定管理事業者であることから、市との連携が求められ、調整しなければならないことも多く、進めにくい点はあるが一歩ずつ取り組んでいきたい。

(2)予算執行状況

令和６年度の給付費執行率は、国分寺市障害者センター103.1%、KOCO・ジャム 99.75%、ケアホームひかり 103.2%であった。令和６年度は東京都の独自事業で「東京都障害福祉サービス等職員居住支援特別手当事業」、その他「処遇改善加算の増額」と手当に係わる補助金収入が増えた。当法人の場合、両手当ともに、対象外職員にも支給していることから、補助金として受ける手当の総額より、支給額の方が上回った。その影響もあり、国分寺市障害者センターはマイナスにて決算を迎えることとなった。KOCO・ジャムについては、開所して７年が経過し、生活介護事業この里では定員まであと１名となった。また、短期入所事業では下半期より男性の利用者が増え、トータル的にプラスにて決算を迎えられた。今後必要となる大規模修繕に備えることなどを考えると、安定した運営とはまだまだいえないが、一歩ずつ積み重ねていると捉えることができた年度であった。

(3)人材育成

上半期報告書において、「キャリアパス制度を活用しての人材育成」「理念の共有」を課題として記した。キャリアパス制度については、人事考課を見据えての検討をコンサル会社からの協力を受けながら開始した。人事考課は新たな取組であることから、制度の理解、試行を含めた取組内容、職員への情報周知と理解と実施しなければならないことが多かったが、令和７年度の試行に向け、ゆっくりとしたペースではあるが進んでいる。また、今回の制度を進めるにあたって、説明会や勉強会で「社会福祉法人は、理念の実現がミッションであること」を繰り返し伝えている。入職時、法人設立の経過や当法人の特徴を説明し、それらのことを踏まえての「理念」であることを伝えている。「理念」が何故必要か、「理念」を日常の業務にどう落とし込み、どう支援をするのか、この点を強化することが必要である。令和７年度以降も引き続き取り組んでいきたい。

(4)その他

国分寺市障害者センターが開所してから 20 数年、その間、基幹相談支援センターの委託、ケアホームひかり、KOCO・ジャム開所と法人としての歩みを進めてきた。この間、社会福祉に係る制度、サービス内容、市内、他法人の状況と大きく変化し、併せてコンプライアンス、リスクマネジメントの重要度も高くなった期間であった。法人としての課題を整理し検討するとともに、指定管理事業、委託事業については、市と意見交換を行う時期にきたと捉えている。

Ⅱ　障害者センター事業部門

Ⅰ．事業全体を振り返って

Ⅰ）事業運営

障害者センター部門は、第６期指定管理の２年目を迎えた。感染症対策についてはハイリスク施設に準じることを基本として通年で対策を取り、感染症（コロナウィルス、マイコプラズマ肺炎、インフルエンザ等）が発生しても大きく感染拡大することなく運営できた。活動については外出プログラムや宿泊訓練、行事、イベントへの参加等も感染対策を取りつつ通常通り実施している。

令和８年度以降の大規模修繕に向けて、修繕中も継続して運営できるように課題整理を行い、一部事業の移転に伴う手続きや環境設定等の洗い出しのため、市と定期的な協議を重ねている。施設開所から22 年を経過して、利用者の状況や活動内容も変化しており、支援を見直す機会として、大規模修繕のみならず今後の事業展開を見据えて協議していく。

２）利用者支援

昨年度より強化してきた医療的ケアの必要な方の受入体制に取り組み、「介護職員等によるたんの吸引等の実施（特定の者）」（以下「第三号研修」という）については基本研修 14 名（内、令和６年度４名受講）、実地研修９名（内、令和６年度６名受講）が修了している。また、呼吸器装着者の単独通所の取組については、それぞれの方の計画に基づいて時間数や回数を増やして実施している。緊急時対応シミュレーションを行い、課題の共有、介護職員の積極的な関与の機会を作り、より安全な環境構築に努めた。その他、第三号研修修了者が実際に支援の場で活かせるよう、令和７年度上半期中に事業者登録を完了するように準備を進めている。

利用者の意思決定支援への取組としては、モニタリングでのご本人の同席を基本として意思の確認をすることや、ご家族には写真や動画を見ていただくことで、普段の活動が少しでも伝わるように努め、個別支援計画にご本人の意思がより反映される取組を引き続き行っていく。また、新たな利用希望者の見学や実習も増えている中で、アセスメントの重要性を再認識しており、希望者の状況やニーズの把握を丁寧に行った上、利用調整会議で受け入れを検討し、少しでもニーズに合った利用につながるよう努めた。

２．事業計画の個別事業の進捗状況と課題

⑴地域活動支援センターつばさ（以下「つばさ」という）の相談支援事業では、相談支援事業所連絡会を通じての新規相談の受入や困難ケースについてチーフミーティングを活用し、チームでの支援体制を整えている。また、今年度より主任相談支援専門員を配置できたことで、市全体の相談支援体制整備にも一翼を担い、相談支援の質の向上にも取り組んだ。サロン事業では引き続き地域の施設の活用や、外出プログラム、地域イベントの参加などを通じて、利用者が地域での暮らしを充実できるような取組を行った。その他、見学や体験利用を積極的に行い、新しい方が参加しやすい環境を整えたことで、新規の問合せや利用登録に繋がっている。普及啓発事業については、日中時間帯や外部施設での開催、YouTube での配信等、多くの方が参加できるよう取組を行った。

⑵生活介護事業太陽（以下「太陽」という）では、医療的ケアの必要な方への支援と共に、強度行動障害等の困難事例への支援強化に努めた。外部講師による研修及び事例検討、基幹相談支援センター（以下「基幹」という）のスーパーバイズ等を活用し、課題整理や客観的な根拠のある支援方針の構築等、支援力向上を目指した。また、個別支援計画のモニタリングでは、各利用者の活動がより伝わるよう、写真や動画を作成し、法人内の実践研究・実践報告で３階の活動室の環境設定の取組について発表する等、自分たちの支援を説明できる力・相手に伝わる力を養い、利用者により適切な支援を考える場を持てるように努めた。その他、各スタッフが主体的に支援を行うと共に、チームでの支援体制を意識し、日々の業務に関われるよう、チームワーク研修や法人内人材交流を実施した。

⑶自立訓練事業はばたき（以下「はばたき」という）では、ケアマネージャや医療機関からの新規の問

い合わせが増えているが、利用開始までに整えが必要で、利用に至るまでに時間が掛かる特徴がみられた。また、介護保険の第２号被保険者の方は、他のサービスとの併用があり、週１日あるいは２日からの利用を開始する傾向にあり、契約者数は増加しているものの、利用率が低めになっている現状がある。活動が定着すると徐々に利用日数増の希望もあり、まずは安定して通所できる日を増やしていけるよう働きかけを行っている。活動内容についても支援の三本柱（生活支援・就労支援・社会参加支援）を基本に、より客観的・効果的な訓練が実施できるよう、リハビリテーション加算の実施やSIM（社会生活の自立度評価指標）（注※）導入の準備に着手した。

※ＳＩＭ（社会生活の自立度評価指標）：　自立訓練利用中の社会生活の自立度の変化を測ることを目的とした指標。「社会生活を維持するための活動」項目として、「健康管理」「金銭管理」「身の回りの管理」「買い物」「家事活動」「調理」「生活のセルフマネジメント」の７項目、「社会の一員として積極的に参加するための活動」項目として、「公共交通機関を利用しての外出」「自動車運転」「人間関係」「仕事／学校」「地域での余暇活動」「日中活動」の６項目、「共通項目」として「制度・サービス利用」の１項目がある。

（厚生労働省「自立訓練事業所のためのＳＩＭによる評価マニュアル」より抜粋）

(4)就労継続支援事業Ｂ型どーむ（以下「どーむ」という）では、利用者の参加度を高め、意欲向上に繋がる取組（新市庁舎の清掃業務の全員参加体制、清掃業務の加算手当、喫茶の新メニュー開発とおにぎり定食販売試行等）を行った。一方で、年齢による体調の変化や病状の変化による通所日・通所時間の減少、他の事業所への移行など利用率の低下が発生している。在席している利用者が安定して通所できるような支援に取り組むとともに、新規利用者の獲得が課題となっている。

(5)短期入所・日中一時支援えんじゅ（以下「えんじゅ」という）では、緊急入所保護事業の受入について、市・基幹と協議を重ねて、業務フロー等の整備に取り組んだ。太陽の利用者のえんじゅ利用希望が増えており、移乗時の二人体制や医療的ケアの必要な時間帯の看護師配置を行うとともに、介護人の研修機会を設けて（ＯＪＴ、介護人研修、医務研修等）支援力の向上に取り組んでいる。また、児童の利用希望も増えており、短時間の利用から徐々に時間数を増やし、コーディネーターと介護人が二人体制で従事しアセスメントを行う等、ご本人が安心して利用できるような取組を行った。これらの多様なニーズに応えるには、介護人の確保が必須であり、引き続き広告媒体を活用した募集や近隣へのチラシ配布等の募集活動を積極的に行っていく。

(6)保健衛生事業は昨年から看護師体制が整い、医務研修や第三号研修の実地研修の充実につながっている。第三号研修修了者が一定数確保できたため、令和７年度中に事業者登録ができるよう着手した。また、日々の利用者の健康管理のみならず、職員の労働環境整備（健康管理や健康相談）にも大きな役割を担っている。

３．人材育成

新人育成と同時に指導者の育成にも力を入れ、新人研修のＯＪＴ進捗状況をお互いに把握しやすくなるよう、体制整備に取り組んでいる。併せて、令和６年度より検討を開始している新しいキャリアパス制度を活用し、理念を実現するための人材育成に取り組み、人事考課制度の導入についても準備を開始した。これらの取組をとおして、働きやすい環境つくりを目指し、次世代を担う人材育成に努めていきたい。また、各職員の支援力や意欲の向上に繋がる取組として、外部研修受講や資格取得の推奨、ｅーラーニングでの基礎研修等、各自のニーズに応じた研修を計画的に実施した。その他、医務チームを中心として企画する医務研修や現場での実技研修を継続して取り組んだ。今後も医療的ケア等のニーズにも対応できる職員を育成していきたい。

1　地域活動支援センターつばさ

1．事業全体を振り返って

1)事業運営

令和６年度より、新たに相談支援機能強化型加算の取得、及び主任相談支援専門員の配置を行い、市内における相談支援の中核を担う事業所としての体制強化とともに、事業運営の安定化を図った。地域生活支援拠点として、基幹相談支援センターと連携して地域体制強化共同支援の取り組みを継続し、14 件の地域課題を提出した。サロン事業では、新たに１名の方が交流サロン協力員に登録をいただいた。毎月１回行った協力員全体会の場等で、職員と協力員一緒に「皆が過ごしやすい交流サロンについて」をテーマに検討しつつ運営した。普及啓発事業では、講座や連絡会をオンライン開催から会場参加型に移行し、参加者同士が面識を持ち交流を深める機会につながった。高次脳機能障害に関する医療機関からの相談も増え、医療分野及び介護保険分野との地域連携強化につながった。市民福祉講座については、会場開催とともに後日の YouTube 配信を定例化することで、より多くの参加者に情報を届けることができた。

2）利用者支援

一般相談と計画相談の連携を強化し、新規相談対応の時点から幅広く相談支対応ができるよう、互いに**利用者のこと、課題、今後の対応等について**情報を共有し支援する体制ができた。今後も、一人ひとりの背景への理解を深めた相談支援を実施できるよう、継続して取り組む。サロン事業では、利用者の希望を活動に取り入れ、利用者自身が主体的に活動に参加できるよう、個別理解を深めた。活動中に災害が起きた時の対応や、てんかん発作や怪我の際の対応フローを共有し、安心安全な活動参加となるよう環境を整えた。相談支援に困難性のあるケースについて、普及啓発事業と連動し、事例コンサルテーションを２回実施した。講師からの関わりや支援への助言が実際の支援に活かされた。

3)職員育成

サロン事業のプログラム運営や普及啓発事業の企画・運営は、職員一人ひとりの得意分野を活かす機会を設定し、支援に関する気づきやアイデイアを共有することで、所属する他スタッフも支援技術を身につけることにつながっている。運営については、先の見通しをもって準備を進めることで、全体把握ができるスタッフ育成につながっている。相談支援においては、計画相談と一般相談の連携も含め、日々の電話相談対応を相談支援の振り返りの機会と捉え、対応内容の共有や意見交換を継続することで、日々の業務における職員育成を行った。

2．事業計画の個別事業の進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1．相談支援事業	・定例的な事例検討は定着し、年間 20 件のケース検討を行った。本人の背景の理解を深める機会がつくれている。本人の希望を中心に支援の方向性を共有し、地域連携の必要も含め実際の支援に役立てている。 ・相談支援事業所連絡会、医療的ケア児（者）に関わる連絡会や研修、各種ネットワーク会議の情報や事業所訪問や見学で得た情報を職員間で積極的に共有し情報更新に努めた。 ・地域体制強化共同支援の取り組みにより、地域課題を 14 件提出した。	・チームによる相談支援 警察案件、希死念慮、世帯全体への重層的支援など、困難性や複雑性のある相談支援への対応 ・関係機関との連携強化と地域課題の発信 支援関係者との相談しやすい関係性構築と地域課題の発信 ・新規相談への取組 相談支援に困難性のあるケースへの対応も含め、丁寧なアセスメントによる新規相談への対応。

	・新規相談について、一般相談と計画相談が連携して取り組む流れができている。相談員が一人で抱えない支援体制の構築がはかれた。 ・請求業務に関する流れが一定整い、請求事務作業の効率化が図れた。	
2.サロン事業	・利用者の希望を活動に取り入れ、利用者自身が主体的に活動できる環境設定に取り組んだ。 ・初回または更新面談での聴き取り内容を職員間で共有し、一人ひとりのニーズに合った活動参加ができるよう個別理解を深めた。 ・活動中に災害が起きた時の対応や、てんかん発作や怪我の際の対応フローを共有し、安心安全な活動参加となるよう環境を整えた。 ・毎月１回協力員全体会議を継続実施し、協力員とともに皆が過ごしやすい交流サロンの運営について検討した。 ・協力員が１名増員となった。 ・空き家活用事業のにわにはや、地域の恋ヶ窪ベースでの活動が、利用者と市民との交流の機会につながっている。	・一人ひとりの利用者がニーズに合わせた活動参加ができるよう、引き続き障害特性への理解を深め、利用者が主体的に活動に参加できる環境設定を行い、安心・安全な活動参加となるよう体制を整える。 ・社会とのつながり、地域の社会資源としての社会参加の機会の提供等、若年層の相談や社会とのつながりを求める相談が増えている。社会参加の入り口を支援する役割を果たす。
3．普及啓発事業	・年３回の市民福祉講座を開催した。YouTube の後日配信により、より多くの方に講演内容を届けることができ、普及啓発につながっている。 ・年３回の高次脳機能障害関係機関連絡会を開催した。アンケート結果より、内容のわかりやすさも含め講座全体の評価が高く、当事者の語りから学ぶ機会が好評を得ている。 ・地域医療機関等から直接入った高次脳機能障害の相談を 15 件受けた。 ・年２回の発達障害者支援関係機関情報交換会を開催した。当事者を交えた鼎談形式の講座が好評だった。 ・相談支援の取り組みと連動した発達障害に関する事例コンサルテーションを年２回実施した。	・包括的かつ多様性の考え方に基づき体験的なプログラムや当事者の声を聴く機会を取り入れる。 ・事業の企画運営に注力できるよう YouTube 配信用の画像制作会社へ外注する。 ・障害の特性への理解を深め、障害特性に合った適切な支援や情報提供への啓発に取り組み、相談支援の実務の向上を図る。 ・高次脳機能障害、発達障害の支援に関するコンサルテーションの周知方法を検討する。

3．活動実績

1)相談実績

総数　12,608 件(総合相談 4,164 件、計画相談 8,444 件)

平均相談件数　39.9 件 (実働日 316 日)

新規相談　96 件

(1)相談支援の方法　(単位 件)

種別	訪問	来所	同行	電話	ﾒｰﾙ	CC	関係機関	その他	計
総合相談	58 (34)	331 (264)	30 (17)	3,364 (3,092)	10 (1)	24 (17)	316 (181)	31 (45)	4,164 (3,644)
計画相談	833 (650)	692 (604)	128 (99)	2,087 (1,701)	85 (27)	87 (58)	4,440 (3,534)	92 (54)	8,444 (6,727)
計	891 (684)	1,023 (868)	158 (116)	5,451 (4,793)	95 (28)	111 (68)	4,756 (3,715)	123 (99)	12,608 (10,371)

(　　) 内は昨年度実績　*CC(ｹｰｽｶﾝﾌｧﾚﾝｽ)： 関係者会議。

(2)相談内容

一般相談　(単位 ： 件)　(構成比%)

福祉ｻｰﾋﾞｽ	530	9.87
障害理解	683	12.72
健康医療	376	7.00
不安解消	2,458	45.77
保育教育	3	0.06
家族・人間関係	517	9.63
家計経済	55	1.02
生活技術	289	5.38
就労	88	1.64
社会参加・余暇活動	228	4.25
権利擁護	3	0.06
その他	140	2.60
地域移行	0	0.00
合計	5,370	100.0

計画相談　(単位 ： 件)　(構成比%)

福祉ｻｰﾋﾞｽ	6,631	55.2
障害理解	1,896	15.8
健康医療	1,287	10.7
不安解消	585	4.9
保育教育	234	1.9
家族・人間関係	582	4.8
家計経済	122	1.0
生活技術	164	1.4
就労	180	1.5
社会参加・余暇活動	111	0.9
権利擁護	62	0.5
その他	168	1.4
合計	12,022	100.0

※相談内容は、1 回の相談の中で複数の内容がある場合は、それぞれの項目に計上。

(3)計画相談の契約数：契約者数 312 名(3 月末)

ｻｰﾋﾞｽ等利用計画作成件数	306 (305) 件
ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ報告件数	588 (558) 件

(　　) 内は昨年度実績

2）サロン事業

(1)プログラム別参加者数　　（単位 名）

プログラム名	令和６年度	平均参加人数	実施回数
交流サロン	876	3.04	288
健康体操教室（恋ヶ窪ベースにて開催）	45	2.25	20
パソコン広場	61	2.65	23
あーとサロン	108	4.91	22
プレイス	111	10.09	11
WRAP（ラップ）	42	3.50	12
ハンドクラフト	47	3.92	12
たがやし隊（センター周辺の花壇にて開催）	14	1.17	12
つばさトーク	5	2.50	2
いきいきプログラム（いきいきセンターにて開催）	51	6.38	8
スペシャルプログラム（プレイスと合同開催）	34	11.33	3
合計	1,394	—	—

(2)内容

＜つばさトーク＞

開催予定	テーマ
9月21日	立川防災館見学
1月15日	書き初め

＜いきいきプログラム＞

開催日	内容
5月26日	フラダンス
6月23日	フラダンス
7月28日	フラダンス
10月27日	楊名時太極拳
11月24日	楊名時太極拳
12月22日	楊名時太極拳
1月26日	バランスボール
3月23日	バランスボール

＜スペシャルプログラム＞

11月2日	ウォーキング（プレイスと合同）※雨天のため室内プログラムに変更
12月7日	冬のあーと教室（雪だるまの飾り作り・プレイスと合同）
3月1日	ウォーキング（プレイスと合同）

＜たがやし隊＞

開催日	内容
4月18日	殿ヶ谷戸庭園外出
5月16日	ファーマーズマーケット買い出し・屋上庭園見学
5月23日	苗植え
6月13日	草取り・ハーブを使ったソーダ作り
7月1日	七夕の笹取り
9月19日	押し花でしおり作り
10月17日	野菜・花の苗植え
11月14日	クリスマスリース作り
12月12日	アドベントカレンダー作り

2月13日	花の苗植え
2月27日	野菜の収穫・スープ作り
3月27日	お花見・振り返り

＜プレイス＞

日程	内容
5月18日	レクリエーション
6月15日	外出（スシロー国分寺店）
7月6日	七夕飾りづくり
8月3日	地域クラブ祭り
9月7日	外出説明・ボッチャの練習
10月5日	ボッチャ大会
11月2日	ウォーキング（スペシャルプログラムと合同）※雨天のため室内プログラムに変更
12月7日	冬のあーと教室（雪だるまの飾り作り・スペシャルプログラムと合同）
1月12日	かるた取りゲーム
2月1日	1年の振り返り・外出説明
3月1日	ウォーキング（スペシャルプログラムと合同）

＜WRAP(元気回復行動プラン)グループ＞

日程	内容
4月13日	WRAPと元気に役立つ道具箱
5月11日	元気に大切な5つのこと①
6月8日	元気に大切な5つのこと②
7月13日	日常生活管理プラン・ストレッサーと対応プラン
8月10日	注意サインと対応プラン・調子が悪い時と対応プラン
9月14日	クライシスプラン・クライシス後のプラン
10月12日	否定的な考えを肯定的に変える
11月9日	ピアサポート
12月14日	仕事に関すること
1月18日	トラウマからの回復
2月8日	自殺予防・その他のこと：生活空間
3月8日	その他のこと：暮らし方・やる気

3）普及啓発事業

(1)高次脳機能障害支援促進事業　ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ　＜高次脳機能障害関係機関連絡会＞

日程	内容	実績
6月27日(木)	内　容：『高次脳機能障害の方の復職支援』 講　師：守矢 亜由美 氏 (東京都心身障害者福祉センター 地域支援課 高次脳機能障害者支援 担当 課長代理) 講　師：田村 みつよ 氏 （東京障害者職業センター多摩支所 障害者職業カウンセラー）	35人
11月22日(金)	内　容：『高次脳機能障害の方の心理面の変化・必要な支援』 講　師：鈴木 大介 氏 (文筆業／高次脳機能障害当事者) 講　師：山口 加代子 氏 (川崎市南部リハビリテーションセンター在宅支援室 臨床心理士／公認心理師) 講　師：長谷川 幹 氏　(世田谷公園前クリニック リハビリテーション科医師)	38人

3月15日(土)	内　容：『当事者が語る　高次脳機能障害と私の就労』 講　師：K氏（高次脳機能障害当事者） 講　師：霜鳥　智美　氏 （株式会社アビリティーズジャスコ武蔵境センター 就労支援員） 講　師：長谷川　幹 氏 (世田谷公園前クリニック リハビリテーション科医師)	15人

(2)発達障害者理解促進事業　ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ<発達障害者支援関係機関情報交換会>

日程	内容	実績
7月30日(火)	内　容：「本人理解を深める事例検討 ～リフレクティングを用いて～ 」 ＜事例検討チーム＞ 事例発表者：澁谷 龍之介 氏 (就労移行支援事業所ディーキャリア府中オフィス管理者 / サービス管理責任者 / ジョブコーチ) インタビュアー：小杉 理 (地域活動支援センターつばさ 主任相談支援専門員) ＜プロフェッショナルチーム＞ 講　師：山口 加代子 氏 (川崎市南部リハビリテーションセンター在宅支援室 臨床心理士 / 公認心理師) 講　師：井田 早希 氏 (国分寺市福祉部障害福祉課 相談支援係 保健師) インタビュアー：小堺 幸恵 (地域活動支援センターつばさ 相談支援専門員)	11人
2月22日(土)	内　容：「発達障害者の働きやすい環境づくり」 ファシリテーター：山口 加代子 氏（川崎市南部リハビリ テーションセンター在宅支援室 臨床心理士 / 公認心理師） パネリスト：M.M 氏（発達障害当事者） 澁谷 龍之介 氏(就労移行支援事業所ディーキャリア府中オフィス 管理者 / ジョブコーチ) 中西 将史 氏（デコボコベース株式会社 企画部長）	15人

(3)市民福祉講座

日程	内容	実績
4月6日(土)	内　容：「発達障害の理解と支援」 講　師：山口 加代子 氏 (川崎市南部リハビリテーションセンター在宅支援室 臨床心理士 / 公認心理師)	72人 (会場23人、 YouTube49人)
8月17日(土)	内　容：「わかりやすい障害年金」 講　師：福田 康雄 氏 (社会保険労務士 / みなと横浜社会保険労務士事務所 みなと横浜障害年金申請サービス)	133人 (会場39人、 YouTube94人)
1月25日(土)	内　容：スイーツからみる食の未来～選択肢を拡げよう～ 講　師：志水 香代 氏（インクルーシブパティシエ / 口育士）	46人 (会場14人、 YouTube32人)

(4)対面朗読者派遣事業　　登録者数 5名　派遣回数 12回

2　生活介護事業太陽

1．事業全体を振り返って

1)事業運営

年間計画に沿って各プログラムや社会参加活動や行事等を行った。一日外出や昼食外出等の活動を引き続き行い、利用者に行きたい場所や現地での過ごし方、食事等を選択できるよう、写真やイラストを活用しご本人の意思を引き出すことができるよう工夫した。その他、法人内事業所との合同行事（ミニ縁日、お弁当給食等）にも力を入れ、事業内にとどまらず様々な人と交流する機会を設けた。創作活動では、利用者が制作過程により加わることができるよう工夫した。また、オープンディでは、利用者の方が実際製作されているコーナーを設け、お客様と直接お話する機会となり、お客様からも印象に残ったブースとの感想をいただいた。引き続き、製作過程に利用者が如何に参画するかを考え取り組んでいきたい。懸案事項であった、3階事務室のレイアウトを変更し、活動スペース・パーソナルスペース・休憩スペースと環境整備を行った。2階多目的室、3階スヌーズレンと館内を広く活用することで、利用者個々の状況に合わせた場所を提供できるよう取り組んだ。

2)利用者支援

利用者の重度化、高齢化への対応について、ご家族やグループホーム、医療との連携を丁寧に行う事業運営を目指した。また、個別支援計画作成を通して、利用者が実現したいことを聞き取り、それをどのように支援するかを模索し、利用者一人ひとりの理解に努めた。併せて、個別支援計画に記されている内容、それに基づく支援内容等について、情報共有を図り、共通した支援ができるよう取り組んだ。医療的ケアについては、呼吸器装着者の単独通所の試行を重ね、取組の定着を図るとともに、喀痰吸引等3号研修の計画的受講と事業所登録に向け体制整備に努めた。

3)職員育成

新しい職員への OJT については、主任を中心に実施したが、達成度合いを図れるような内容でこれまで実施していなかったこと、振り返りの面談を定期的に実施しにくい環境にあること等の課題が運営会議に挙げられた。令和7年度に向け、これらのことを整え、新しい職員を迎えることができるよう、主任を中心に整えた。個別支援計画の作成にあたっては、職員全員が計画作成に関われるよう、主任を中心に実施した。個別支援に基づく支援を提供できるよう取り組んだ。

2．事業計画の個別事業の進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1．医療的ケアのある方の支援の充実	第三号研修基本研修に関しては支援職員14名が修了し、実地研修に関しては9名修了した。第三号研修基本研修は所属職員の内7割、実地研修は4割強が取得している（実地研修に関して、日程が合わなかったことと、職員の体調不良のため2名実地研修ができなかった）。事業所登録に向けての打ち合わせを定期的に行い、書類を整える等必要な準備を進めた。呼吸器装着者の単独通所に関しては、2名のうち1名の利用者が1月より月2回の単独通所試行を実施した。	・第三号研修基本研修と実地研修に関して、職員の異動等を視野に入れ、継続的に取り組んでいく。 ・支援職員の医療的ケア実施に向けて、登録申請を行えるよう書類を整え、安心安全な実施に向けて、ガイドラインを作成する。 ・単独通所の回数を増やすには、何が必要であるか、また安心安全という視点から、市やご本人・ご家族、相談支援専門員とともに連携し進める。もう一名の方の単独通所についても同様に進める。
2．意思決定支援と個別支	事例検討を定期的に行い、利用者理解を深めた。個別支援計画の面談時、利用者の意	・事例検討によって、これまでの支援で良かったこと、努力していること等のフ

援計画の充実	思を引き出せるよう取り組み、利用者の意思の読み取りが難しい場合は、ご家族と連携を図りながら支援した。	ィードバックをいただけ、そして、今後に向けての助言や指摘をいただける機会となっている。今後も継続的に実施する。 ・個別支援計画の作成は、利用者の意思を汲み取ることが求められる。利用者の意思を引き出せるよう引き続き、取り組みたい。また、職員全員が計画を理解し、支援に繋げることができるよう、主任を中心に取り組む。
３．情報発信の取組	タブレット等を活用し、動画や写真を撮影した。撮影した内容は、面談時や家族会で提示し、活動の様子を伝えるツールとして活用した。	障害を問わず、事業や活動の様子を伝えることができるよう、タブレットを活用する。撮影した内容を事業紹介の資料や見学時に活用できるよう製作に取り組む。

３．利用者の状況等

１）利用者の状況

(1)利用者の推移　新規利用者無。

ご自宅より外にでることが難しく、長く通所されていなかった利用者１名契約終了となった。

(2)年齢別利用者数（令和７年３月31日現在）平均年齢38歳２ヶ月　（単位：人）

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
1	11	15	14	4	2	47

(3)利用者の障害支援区分（令和７年３月31日現在）平均5.5　（単位：人）

区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	合計
1	0	5	7	34	47

(4)１日平均利用者数　平均36.0人　（単位：人）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	36.2	37.1	36.3	36.6	36.3	33.5
(前年)	(37.6)	(37.2)	(36.9)	(37.3)	(33.9)	(34.0)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	34.9	36.9	36.0	36.7	36.1	35.9
(前年)	(36.5)	(35.5)	(35.1)	(34.6)	(35.6)	(35.8)

(5)障害手帳　（令和７年３月31日現在）重複あり　（単位:人）

愛の手帳				身体障害手帳						精神保健福祉手帳		
1度	2度	3度	4度	1級	2級	3級	4級	5級	6級	1級	2級	3級
9	25	4	1	22	8	0	0	2	1	0	3	0

2）行事等の実施状況

①行事

4月	入所式（通所事業合同）	1日	利用者全員
	お弁当給食	25日	利用者全員
5月	施設交流会	5月17日	利用者5名・職員5名
8月	ミニ縁日（通所事業合同）	28日	利用者全員
	宿泊体験	26日～9月1日	利用者3名・職員2名
9月	宿泊体験	9月26日～27日	利用者3名・職員2名
10月	一日外出	4日	利用者4名・職員4名
	宿泊体験	5日～6日	利用者4名・職員4名
	オープンデー	13日	利用者全員
	一日外出	12日	利用者4名・職員3名
	お弁当給食（通所事業合同）	18日	利用者全員
	一日外出	20日	利用者4名・職員3名
	東経大作品販売	26日	職員1名
11月	国分寺まつり	3日4日	職員2名
	一日外出	5日	利用者5名・職員4名
	一日外出	11日	利用者3名・職員3名
	一日外出	14日	利用者3名・職員3名
	一日外出	19日	利用者3名・職員3名
	一日外出	29日	利用者2名・職員2名
12月	一日外出	3日	利用者3名・職員3名
	創作展示販売	4日～5日	利用者全員
	一日外出	6日	利用者3名・職員3名
	一日外出	9日	利用者4名・職員4名
	一日外出	12日	利用者2名・職員2名
	一日外出	17日	利用者3名・職員3名
	ランチdeコース（通所事業合同）	20日	利用者全員
1月	二十歳を祝う会（通所事業合同）	23日	利用者全員
	一日外出	16日～17日	利用者2名・職員3名
2月	宿泊体験	27日～28日	利用者3名・職員3名
3月	宿泊体験	6日～7日	利用者3名・職員3名
	納め会	26日	利用者全員

※利用者全員を対象とした行事については、一部ZOOMを活用している。

②その他

＊東経大コラボ事業として学生とのクラブ活動・交流を11回実施している。

＊本人支給金：4月・7月・10月・1月に支給した。

＊実習生受け入れ：小平特別支援学校より1名・武蔵台学園より2名

職場体験実習　国分寺市立第三中学校より3名

３　自立訓練事業（生活訓練・機能訓練）はばたき

１．事業全体を振り返って

１）事業運営

新規利用相談受付の手順を見直した結果、新規利用相談受付は 20 件、そのうち利用につながったのは６件であった。手順を整えたことで、必要となる情報を把握し、的確に関係機関と連携することが可能となり、利用者が必要なサービスにつながるサポートができるようになった。また、新規相談があった際のマニュアルについても、障害福祉課と受け入れ手順を確認し、フローを作成することで、受付から利用までの流れが整えられた。利用率については、年度途中の退所が重なり目標達成には及ばなかった。しかし、関係機関向けにパンフレットを作成し郵送するなど実施した結果、居宅介護支援事業所のケアマネージャーや、地域移行支援を行っている相談支援事業所からの利用相談が増えた。機能訓練では、今年度より、「リハビリテーション加算Ⅱ」の取得を整えた。令和７年度は、「個別計画訓練支援加算」や「リハビリテーション加算Ⅰ」の取得に取り組み、標準化された効果的な支援プログラムが実施できる体制を整えていきたい。

２）利用者支援

利用者のニーズに合わせて生活支援、就労支援、社会参加支援を組み合わせながら活動プログラムを計画することを、これまで取り組んできた。今年度は、地域で開催された「ボッチャ大会」に２回参加し、利用者同士のコミュニケーションが増え、仲間と協力しあうチームワークづくりが意識できるようになった。参加者の方との自然な交流の中、障害の有無に関わらず相互理解の機会の場となった。また、市内のチームとの交流が生まれており、今後も地域で活動するための足掛かりとなった。その他、リハビリテーション加算を取得し、リハビリ会議を活用し、日々の訓練が効果的に行えているかを振り返り、必要に応じて計画を修正するなど、有効に活用できている。

３)職員育成

事業計画に掲げていた利用者の個別担当を担う、個別支援計画の作成については、他の業務との兼ね合いもあり主任のサポートに留まった。さまざまな障害特性を知り、利用者の個別支援やグループ活動などでは、現場で必要な力を発揮できるよう育成に取り組んだ。

２．事業計画の個別事業の進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
１．事業運営	・新規利用相談受付の手順を見直し、受付から利用契約までの流れを整えた。新規利用相談の受付 20 件のうち、新規利用６件がサービスにつながり、今年度の目標を達成した。 ・関係機関向けのパンフレットの作成し、周知活動を行った結果、関係機関からの利用相談が増えた。	・関係機関への周知活動を行ったことで、自立訓練事業が介護保険第二号被保険者の利用相談が増えている。様々なニーズに対応するため、令和７年度は、高次脳機能障害連絡会などに参加し、障害特性への理解を深める。
２.利用者支援	・活動や利用者の状況に合わせて環境整備を行い、レイアウトを変更するなど柔軟に対応することで、安全に過ごせる環境を整えた。また、リハビリ会議を活用し、効果的な支援が提供できているか振り返りの機会を設けた。	・SIM を導入・活用し、標準化された効果的な訓練プログラムが提供できるよう、また、「個別計画訓練支援加算」や「リハビリテーション加算Ⅰ」の取得を目指す。 ・引き続き、地域で開催されるイベントに参加し利用者が地域に出る機会を増やす。 また、ボランティア等を受け入れ、活動の幅を拡げる。

3．利用者の状況等

(1)利用者の推移

新規利用者	生活訓練：３人	
	機能訓練：３人	
退所者	生活訓練：５人	支給期間満了修了　３名、途中修了　２名
	機能訓練：２人	途中修了２名

(2)年齢別利用者数（令和７年３月 31 日現在）

生活訓練　　平均年齢 41 歳　　（単位：人）

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	合計
0	3	1	0	2	1	7

機能訓練　　平均年齢 57 歳　　（単位：人）

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	合計
0	0	0	0	2	1	3

(3)障害別利用者数（重複あり）（令和７年３月 31 日現在）

生活訓練　　（単位：人）

精神障害	発達障害	知的障害	てんかん	高次脳機能障害	身体障害
3	2	1	2	1	2

機能訓練　　（単位：人）

精神障害	脳血管障害	頭部外傷	進行性難病	脊椎損傷	言語障害	肢体不自由	てんかん	高次脳機能障害
0	3	0	0	0	2	3	0	2

(4) 1 日平均利用者数

生活訓練＜開所日：月・水・木・金曜日＞　平均　3.5　　（単位：人）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
利用者数	3.9	3.2	3.1	2.1	2.6	2.7
(前年)	(2.2)	(3.0)	(4.4)	(4.1)	(4.5)	(4.3)
月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用者数	3.6	4.1	4.2	4.7	4.3	3.4
(前年)	(4.5)	(4.3)	(4.4)	(4.4)	(4.5)	(3.9)

機能訓練＜開所日：火曜日＞　　平均　2.7　　（単位：人）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
利用者数	2.8	2.0	2.0	1.6	3.3	3.0
(前年)	(2.3)	(3.4)	(4.8)	(3.5)	(3.6)	(3.3)
月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用者数	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0
(前年)	(4.0)	(3.8)	(3.8)	(3.8)	(2.8)	(3.0)

(5)施設及び病院等訪問

施設及び病院等訪問	アレーズ（就B） クメンタクリニック あさやけ喜平橋食堂	4月18日（木）見学 4月22日（月）訪問 4月26日（金）関係者会議
	アレーズ	5月24日（金）見学
	ディーキャリア立川 テラスハウスGH オハナ農園（生介、就B）	6月5日（水）合同説明会 6月13日（木）関係者会議 6月26日（水）見学
	ポートビズ（就移） まほろば（介保） 立川てくてく（就B） ふっくりー（就B） おとなりさん（介保） ボナール（介保） リタリコワークス（就移）	7月3日（水）見学 7月5日（金）見学 7月10日（水）見学 7月17日（水）見学 7月19日（金）見学 7月22日（月）見学 7月24日（水）見学
	ともしび工房 市役所実習	9月4日（水）見学 9月19日（木）就労体験
	ハローワーク立川	10月16日（水）面談
	ワークスペースひなた（B型） ちえホーム（就B） ともにードリーム（就B）	11月6日（水）見学 11月21日（木）見学 11月27日（水）見学
	サンサロン（生活介護） 小金井市障害者センター 小平職業開発能力校 ディーキャリア立川（就移）	12月5日（木）見学 12月12日（木）交流会 12月16日（月）見学 12月18日（水）見学
	デイケアあずさ（介保） ボッチャ大会 立川職業センター 市役所実習	2月6日（木）見学 2月9日（日）参加 2月14（水）26（月）職業評価 2月25日（火）職場体験
	武蔵野すばる	3月3日（月）見学
	サンサロン（生介） オハナ農園（生介、B型） ワークスペースひなた（B型）	3月12日（水）見学 3月17日（月）見学 3月24日（月）見学

4　就労継続支援Ｂ型どーむ

１．事業全体を振り返って

１)事業運営

上半期は、喫茶・スイーツ部門の事業の安定に重点を置いた。店内喫食を再開するにあたり、利用者会議を活用し共に話し合い、職員・利用者が確実にサービス提供できるよう準備した。下半期は、市庁舎移転に伴う清掃活動日の変更により、活動スケジュールを大幅に変更した。加えて、喫茶の新メニュー開発なども重なったが、説明や意見交換を重ね、利用者と共に変化に対応できるよう努めた。喫茶・スイーツに関しては、米などの原材料費高騰により仕入れ価格が上がり、販売価格を原材料費、利用者工賃の観点から見直す必要性を感じることが多い下半期であった。令和７年度早々に対応できるよう検討を開始した。

２）利用者支援

年度当初は、契約者 15 名でスタートした。不調や入院、体力面等を理由により長期休みが続いた利用者に対して、関係機関とも連携し日中活動先の検討も含め、環境を整えるよう取り組んだ。仕事をしたいという思いに応え、短時間の活動であっても、利用者一人ひとりが役割を担い、社会の一員としての活動の場を提供できるよう取り組んだ。清掃活動の参加者が少ないことが、数年来の課題となっていた。利用者会議にて、事業全体で受けている業務であること、事業として清掃にどう取り組むかを利用者と話し合うとともに、清掃手当を検討したことで、清掃業務への参加者を増やすことができた。

３)職員育成

部署の会議内で活発に意見交換が行われ、事業としてのチームが構成されている。今年度は主任を中心に OJT が行われ、日々の支援の中で計画に沿った支援が実施できるよう、職員一人ひとりが個別支援計画に基づく支援を意識的して取り組んできた。

２．事業計画の個別事業の進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
１．新たな事業展開	市役所の新庁舎移転に伴い、この機をチャンスとして捉え、新たな事業展開を生活介護事業この里とともにプロジェクトを立ち上げ検討（スケジュール管理、販売内容、新たな店舗、新製品の開発等）することを年度計画としていただが、共同作業を行う段階までにはいたらなかった。	・喫茶の新メニューとして、おにぎり定食を開発し、厨房工事の期間に試作を重ね、喫茶メニューとして提供した。アンケート結果も概ね好評だった。 ・喫茶・スイーツ商品の販売価格の見直しとともに、カフェタイムの売り上げの伸びが芳しくないことが課題となっている。令和７年度より店舗内の席数を増やし、喫茶全体での売り上げを伸ばす取組を行う予定である。
２.利用者支援について	新たなことを展開する際、業務の一つずつが利用者の方に分かりやすく、そして、ご自身で取り組めるよう業務の組み立てを行った。清掃業務については、作業日が土曜日から火曜日に、清掃箇所が市役所職員の方と接することのない場所への変更と環境が変わった。環境の変化を良い機会として、利用者全員で取り組むことを目指した。併せて、清掃業務に携わる意欲を少し	・個別支援会議では、利用者の困り感に支援の糸口があるという視点に立ち、利用者一人ひとりが自分の仕事に自信を持ち取り組めているかの点で、統一した支援ができるよう検討する。 ・清掃業務に全員で取り組むことができたことを活かし、今後は作業内容と工賃の設定が利用者に分かりやすいこと、作業の評価が工賃へと反映されることが

	でも高められるよう手当を加算した。結果、午前、午後２チームに分かれ、全員で取り組むこととなった。	利用者に伝わるよう、工賃の見直しを次年度実施したい。

３．利用者の状況等

１）利用者の状況

(1)年齢別利用者数（令和７年３月 31 日現在）　平均年齢 41 歳　（単位：人）

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	計
1	2	3	3	5	0	14

(2) 1 日の平均利用者数　平均 6.7　（単位：人）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
利用数	6.5	7.2	6.6	6.8	6.2	7.3
前年度	(6.5)	(6.6)	(6.8)	(6.1)	(6.0)	(6.3)
月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用数	7.0	6.9	7.1	6.9	5.8	6.4
前年度	(6.9)	(6.6)	(6.8)	(6.1)	(5.8)	(6.4)

(3)利用者の障害の状況（重複障害あり）　（単位：人）

精神障害	てんかん	知的障害	発達障害	肢体不自由	聴覚障害	高次脳機能障害
7	3	6	1	1	3	0

(4)障害支援区分　（単位：人）

区分なし	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4
5	1	2	5	1

(5)活動内容【活動種別】

種別	活動内容
喫茶いずみ	調理・弁当の提供・店内清掃
スイーツいずみ	製造・店頭販売・地域のイベントに出店
清掃	市役所（第２庁舎）の清掃業務　※令和７年１月より市役所新庁舎の清掃業務

(6)【週間活動スケジュール】

月	火	水	木	金	土	日
喫茶 スイーツ	喫茶 清掃	喫茶 スイーツ	喫茶 スイーツ	喫茶 スイーツ	清掃 スイーツ	イベント時 販売
喫茶 スイーツ 買物・洗濯	喫茶 清掃	喫茶 スイーツ	喫茶 スイーツ	喫茶 スイーツ		

※喫茶営業：月～金曜日 11：30～15：30　火曜日：市役所清掃

※清掃業務：令和６年４月～12 月　毎週火曜日・土曜日

令和７年１月～　毎週火曜日、火曜日が祝日の場合は土曜日

(7)行事等

実施日	行事名	場所	実施人数
7 月 4 日	東経大デモ販売	東京経済大学	利用者１名　職員１名
8 月 26 日	東経大学生との交流	障害者センター	利用者７名職員２名
9 月 26 日	東経大デモ販売	東京経済大学	利用者１名　職員１名
10 月 13 日	万葉の里　オープンデー	障害者センター	利用者８名　職員３名

10月14日	ぶんちっち祭り※菓子販売はこの里に依頼		
10月11日～ 10月20日	お仕事ネット販売会 ※19日、20日　販売担当	国分寺ミーツ	利用者5名　職員3名
11月3,4日	国分寺まつり出店	武蔵国分寺公園	利用者4名 職員2名
11月29日～ 12月7日	障害者週間販売 ※30日、2日、5日　販売担当	国分寺セレオ	利用者4名 職員2名 （各日）
2月8日～ 2月9日	お仕事ネット販売会 ※販売は別事業所が担当		
3月16日	お仕事ネット20周年記念販売会	武蔵国分寺史跡公園	職員1名

(8)その他

利用者会議・お仕事ネットワーク毎月実施

東経大コラボ会議：4月15日　5月20日　6月17日　10月7日、11月18日、
1月27日　対面にて実施

東京経済大学構内、生協常設販売：4月30日、5月24日、6月20日、10月18日、
1月27日納品

実習生受け入れ：手をつなぐ親の会実習3名
武蔵台学園高等部2年生、3年生　各1名
学芸大学付属特別支援学校高等部1年生　1名

5　短期入所事業・日中一時支援事業えんじゅ

1．事業全体を振り返って

1)事業運営

令和６年度は日中一時支援事業（以下「日中」という)、短期入所事業（以下「短期」という）ともに、前年を上回る利用日数と時間となり、利用が増えた。新規契約者は 30 名、うち 15 名は児童で、特に短期では未就学児を含む児童の利用が増え、成人とは異なる行動特性もあり安全に配慮し、必要時は介護人２名でのサービスを提供した。また、一人暮らしをされている精神障害の方１名が、継続的に利用されており、コーディネーター、介護人との過ごすことが、社会と繋がる接点となり、レスパイトによらない、他の役割も果たしていると実感した。その他、緊急入所保護事業については、打診や相談はあったが実施する事案は発生しなかった。

2）利用者支援

児童の短期利用については個々の特性に配慮し、日中の短時間利用を数回おこない、慣れてきたことを家族とも確認しながら短期利用実施へと丁寧に時間をかけて取り組んでいる。医療的ケアを必要とする方・重症心身障害者の方の利用の際は、個々の状態に合わせて食事加工や介助・服薬・バイタルチェックなどを看護師とともに実施し、安心・安全な利用を心がけた。

3)職員・介護人育成

新規採用の介護人については、e ラーニングでの研修を活用し、障害者支援の基礎となる部分を学び、実際の支援に活かせるよう実施した。年２回の介護人会議では、権利擁護・身体拘束・個人情報保護など、障害福祉に携わる者として必要な知識とともに新たなことを学ぶ機会として開催した。介護人確保に向け、求人媒体の活用、「福祉のお仕事相談会」への参加等、確保に向けた取組を継続的に実施した。採用したもののご家族やご本人の体調不良による退職、辞退等様々な要因があり、介護人が充分な体制にはいたっていない。次年度も引き続き、様々な媒体、機会を活用し介護人確保に努めたい。

2．事業計画の個別事業の進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1．安心して受入できる環境を整える	・緊急入所の受入の際は、受入れまでのフロー図や利用相談受付表に則り、市・関係機関と連携を図り手順に沿って受入れが進められるよう再確認した。 ・医療的ケアが必要な利用者の定期的な利用が増えている。看護師との連携はもちろんのこと、通所事業との連携、ご家族との日ごろの様子、体調の変化等の情報を共有することが更に求められるようになっている。	・受入の際はフロー図に沿って対応するとともに、アセスメントが不足しているケースについては、職員が利用開始時は対応し必要な情報を把握し、その上で介護人に引き継ぐことを継続する。 ・日中事業では、現在の取組を継続するとともに、短期事業では、医療的ケアの方への支援に担当職員がこれまで以上に入り、看護師と情報共有を図りながら取り組む。
2.介護人の確保と育成	・宿泊が可能な男性介護人が不足していることで、医療的ケアや移乗が必要な男性利用者への支援が難しい状況である。そのため、コーディネーターや他事業の男性職員が対応することが増えた年度であった。 ・年度初めに服薬を忘れてしまう事故が発生した。服薬忘れがないよう、提供までの手順を見直し図った。しかし、下半期に	・求人媒体での募集を継続するとともに、募集チラシを配布し介護人確保を目指す。 ・利用者一人ひとりの障害は異なり、事業を利用されている際、利用者が安心・安全に利用できるようコーディネーターと介護人との間で、支援内容、ご本人の日ごろの生活、好きなこと等について情報を共有し取り組んできた。このことは継続しつつ、併せ

	おいて、同様の事故が発生してしまった。	て、介護人が安心して業務に従事できるよう、必要な場面における２名体制での支援を増やしていく必要があると捉えている。
３．受入枠の工夫	・短期では２名同室利用の機会を増やし、利用ニーズに応えた。また、連泊利用についても、可能な範囲で実施し、利用実績を伸ばした。日中に関しては、週末はセンター内多目的室を活用し、受入枠の拡充に努めた。 ・WEB での受付と申込の試験的運用を３ヵ月間実施した。届いたデータについて、その後の処理、保管などの課題があることが分かった。引き続き検討を行う。	・左記に記した課題に取り組むとともに、登録利用者への周知に向け、準備を整える。

３．利用者の状況

１）活動実績

(1)短期入所事業　　**（単位　日）**

	知的	児童	身体	精神	難病	合計	令和5年度
4月	36	0	25	0	0	61	51
5月	35	4	25	0	0	64	64
6月	43	2	25	0	0	70	68
7月	48	2	26	7	0	83	73
8月	41	4	28	9	0	82	48
9月	41	6	26	9	0	82	65
10月	43	6	24	8	0	81	60
11月	34	6	30	8	0	78	62
12月	31	10	20	8	0	69	53
1月	26	12	25	8	0	71	56
2月	20	16	23	8	0	67	58
3月	35	16	16	7	0	74	73
合計	433	84	293	72	0	882	731

※昨年度と比較すると児童は２倍以上、精神の方は大幅に利用日数増加。1.18 日/月

②　日中一時支援事業　　**（単位　時間）**

	知的	児童	身体	精神	難病	合計	令和5年度
4月	50	58	71	0	0	179	222
5月	63	46	59	0	0	168	155
6月	90	53	67	0	0	210	135
7月	91	70	70	0	0	231	218
8月	85	129	65	0	0	279	236
9月	82	33	77	0	0	192	155
10月	77	57	63	0	0	197	206
11月	95	66	71	0	0	232	212
12月	65	52	95	0	0	212	188
1月	74	43	80	0	0	197	160
2月	88	56	60	0	0	204	163
3月	117	73	51	0	0	241	231
合計	978	736	829	0	0	2,542	2,281

※児童から成人への転換数名あり児童の時間が減り、知的・身体に振り分けられた。平均 212h/月

③　緊急入所保護事業　利用件数無（令和５年度　３件　利用日数17日）

④　医療的ケアのある方の日中一時支援事業利用（※生活介護太陽通所利用者１名が利用）

	令和6年度			令和5年度		
	人数	日数	時間数	人数	日数	時間数
4月	0	0	0	1	1	2
5月	0	0	0	1	1	5
6月	0	0	0	0	0	0
7月	1	1	5	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0
1月	1	1	5	1	1	5
2月	0	0	0	1	1	3
3月	0	0	0	0	0	0
合計	2	2	10	4	4	15

⑤医療的ケアのある方の短期入所事業利用（定期利用２名　その他女性利用者１名１回のみ利用）

	令和6年度		令和5年度	
	人数	日数	人数	日数
4月	2	4	2	4
5月	2	4	2	4
6月	2	4	2	4
7月	2	7	2	4
8月	2	4	0	0
9月	2	4	2	4
10月	2	4	1	2
11月	2	4	2	3
12月	2	3	2	4
1月	3	6	2	4
2月	2	4	1	2
3月	2	3	2	4
合計	25	51	20	39

⑥キャンセルと介護人休業手当（季節の変わり目の10,11,12,3月では感染症によるキャンセル増）

	短期入所	日中一時	令和6年度	令和5年度
	日数	時間	休業手当金額	休業手当金額
4月	4	12.5	34,445	18,795
5月	4	14	23,766	46,488
6月	0	3	2,340	22,018
7月	7	0	0	12,003
8月	6	6	15,091	42,113
9月	2	3	9,468	6,027
10月	11	11	39,838	28,443
11月	12	0	31,587	5,246
12月	6	16	23,006	15,381
1月	0	7	3,198	8,743
2月	0	16	0	2,206
3月	6	14	18,243	13,914
合計	58	102.5	200,982	221,377円

6　保健衛生事業

1．事業全体を振り返って

1)事業運営

医療的ケアの必要な方の支援の充実を図るため、定期的な医療的ケア研修の開催や、支援職員の研修受講を計画的に行い、看護師及び支援員のスキルアップの定着を図り、継続して人材育成に取り組んだ。また、呼吸器装着者の支援として、段階的に進捗を図りながら、単独通所の試行を行った。感染症対策として、情報の収集・共有を図り、状況に合わせて感染症拡大防止に努めた。利用者の健康診断受診は、引き続き個々の状況に合わせた手段で関係機関と連携を図り、健康把握に努め、結果を嘱託医と共有し、事後の対応に繋げるサポートに努めた。職員の健康管理として、健康診断後の医療機関の受診の勧奨方法を工夫するなど、アフターフォローに努め、自身の健康管理への意識の向上に努めた。医療的ケアを中心に支援の充実を図るとともに、引き続き中期計画と連動した役割を担える人材育成に取り組んだ。

2．事業計画の個別事業の進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1．医療的ケアの必要な方の支援の充実	東京都保健福祉財団で開催しているたん吸引等の研修を活用し、計画的に支援職員の研修受講を実施し、スキルアップサポートを行った。今年度は新たに基本研修４名、実地研修６名受講した。また、事業者登録に向けて月１回のミーティングを行い、申請書類の作成について進捗確認を行い、登録後に実施する従事者の申請についても検討を図った。人工呼吸器装着者の支援では緊急時対応の訓練の月２回実施を継続して行い、看護師と支援職員の連携強化を図り、安心安全な支援に取り組んだ。	利用者の重度化と高齢化や、医療的ケアが必要な方の新規利用による増加に伴い、必要なケアの対応が増えている。支援職員の医療的ケア実施に向けて、新年度の上半期には、事業者登録申請を行えるように整える。また、実施する際のガイドラインを作成し、安心安全な実施に努める。短期入所事業においても、看護師のケアを必要とする利用者が増え、安心安全な利用に向けて看護師の体制を整備し、連携の強化を図る。
2.感染症対策	嘱託医と連携を図り、感染症流行状況に合わせ、情報収集・提供を継続して行った。11月に利用者・職員を対象にインフルエンザ予防接種を実施し、感染症拡大防止に努めた。手洗い・嘔吐物処理研修については、職員会議で全事業所に周知を行い、通所事業（太陽、どーむ、この里）で実施した。	感染症流行状況に合わせ、情報発信・必要な情報についての共有等を継続して行う。手洗い・嘔吐物処理研修についても必要に応じた実施方法を検討し、通所事業に留まらず、全事業での実施を目指す。
3．利用者や職員の健康管理	利用者個々の状況に合わせ健康診断受診のサポートを行い、嘱託医と結果の共有を図り、必要に応じ事後対応のサポートを行った。職員の健康管理として、健康診断受診と産業医と連携を図り、対応が必要な職員に対しては、個別に医療機関受診の勧奨を行い、期限内に結果報告のない場合は、	利用者の重度化、高齢化に対応した健康診断の受診方法を再検討し、健康管理ができる体制を整える。職員の健康管理では、健康診断の受診結果により、医療機関受診が必要な職員が、早期対応を行い、健康保持ができるよう受診勧奨の方法の再度検討を図る。

	再度勧奨を行う等丁寧な対応を心がけた。休職者に対しては、復帰プログラムに沿って主治医の診断・指示のもと労働環境を整え取り組んだ。	
４.看護師の体制づくり	たん吸引の指導員を担い、計画的に支援職員の医療面のスキルアップサポートを行った。また、外部講師による医務研修を年２回行い、継続して連携の強化を図った。	引き続き、左記の内容を実施できるよう、計画的に取り組んでいく。

３．事業内容

１） 生活介護事業 太陽

(1)健康診断：毎月第１・第３金曜日　計 24 回実施

(2)定期健康診断：年１回 （嘱託医１回・市の保健事業や医師会健診も活用した）

(3)健康相談：必要時に対応

（本人・家族・職員対象に、必要時嘱託医との面談を行い、医療機関を紹介した）

(4)歯科健診：年１回(６月 27 日)

(5)ブラッシング指導：月に１回　計 12 回

(6)感染対策：インフルエンザ予防接種勧奨・実施

(7)細菌検査年２回（全員異常なし）

(8)受診同行７回・家庭訪問２回・緊急時対応３回・関係者会議４回・医療的ケア対応

（人工呼吸器の管理・経管栄養・気管切開部の管理・痰の吸引・ネブライザー・導尿・褥瘡処置・発作時座薬挿肛・浣腸）・マニュアルの見直し・主治医との連携

(9)毎日の健康チェック、服薬管理、活動への参加、送迎添乗

(10)主治医・地域医療機関との連携

(11)リハビリ会議・PT/OT との連携・福祉用具の作成や導入の支援

(12)摂食支援：摂食会議への参加

(13)感染対策：手洗い研修１回

２） 自立訓練事業 はばたき（機能訓練・生活訓練）

(1)必要時バイタル測定・体重測定・外傷処置・栄養相談・健康相談

(2)随時・定期健診の受診勧奨

(3)細菌検査（年２回）利用者全員異常なし

(4)ブラッシング指導２回

３） 地域活動支援センターつばさ

(1)外傷処置・体調不良者の対応

(2)健康相談・病院紹介・電話相談(随時)

４） 短期入所事業・日中一時支援事業えんじゅ

(1)利用者の把握と体調不良時・急病･外傷などの対応、健康相談

(2)救急セットの管理、衛生管理

(3)痰の吸引・経管栄養など医療的ケアを必要とする利用者の対応

５） 就労継続支援事業Ｂ型　どーむ

(1)毎月の細菌検査：（毎月全員異常なし）

(2)通院同行１回

(3)感染対策：手洗い研修１回

(4)随時：健康相談・栄養相談

6）生活介護事業この里
(1)健康診断：毎月１回　計12回
(2)定期健康診断：年１回　（市の保健事業を活用した）
(3)健康相談：必要時に対応
(4)感染対策：インフルエンザ予防接種勧奨・実施
(5)細菌検査年２回（全員異常なし）
(6)随時：健康相談・栄養相談・ブラッシング指導
(7)感染対策：手洗い研修１回
(8)ブラッシング指導１回
7）　共同生活介護事業・ケアホームひかり・ケアホームこの葉
(1)利用者の健康管理・入院時の対応・健康相談・感染症対策
(2)衛生管理・家族との連携
8）　職員
(1)健康診断　年１回（深夜業従事者　年２回）
(2)細菌検査　年２回　対象職員のみ（５月、１月：全員異常なし）
(3)緊急受診・健康管理と健康相談・メンタルヘルス相談・予防接種の勧奨など
(4)手洗い研修
9）　要医療的ケア者の受け入れ状況
(1)通所：経管栄養（６名）たんの吸引（６名）ネブライザー（１名）呼吸器（３名）
褥瘡処置（１名）
(2)日中一時：経管栄養（４名）たんの吸引（１名）
(3)短期入所：経管栄養（１名）たんの吸引（１名）夜間不要
(4)医療的ケアの実施、実施に向けて主治医との面談・指示書依頼、家庭訪問
10）研修
(1)医療的ケア研修実施　２回（外部講師による）
(2)職員全体研修参加（外部講師による）３回：看護師全体
(3)内部研修参加　看護師全体

Ⅲ　KOCO・ジャム事業部門

１．事業全体を振り返って

１）事業運営

令和６年度は KOCO・ジャム設立７年目を迎え、各事業において事業運営が安定してきたと同時に、利用者の人数や活動、生活の幅が広がり、それに応じた環境、職員体制、支援等について、今後取り組むべき課題について捉えることができた年度であった。年間を通した取組としては、概ね順調に進捗したと捉えている。グループホームの満床での運営、短期入所事業での新規利用者増加による稼働率の向上、あわせて通所事業における契約者数の増加と利用率の向上から、収支においても安定した運営を行うことができた。職員体制としては、グループホームや居宅介護事業において人員不足は続いており、様々な求人媒体を活用し募集活動を行ってもなお、厳しい状況は続いている。そのような状況下ではあったが、昨年度より継続しているKOCO・ジャム全体での事業を超えた協力体制や所属職員の調整等により、通常の運営を行うことができた。事業運営の安定を図り、各事業の課題に取り組みつつ、より良いサービスを提供するための新しい視点を取り入れ、チャレンジする気持ちを持ち続けられるような職場環境つくりを今後も目指したい。

２）利用者支援

通所事業では、現状の利用者数や環境等に合わせて、作業・余暇活動を見直し、利用者の強みを活かした活動、地域活動への参加など、活動の幅を広げることができた。グループホームでは、利用者一人ひとりのニーズに応じた支援を行うための取組として、意思表出・意思決定の機会をいかに作り出せるかを念頭におき支援に取り組んだ。利用者自治会を継続することにより利用者の希望を形にすることができ、また身体機能や認知機能についてのアセスメント様式の継続により、利用者の変化を把握し、支援を見直すことができた。

２．事業計画の個別事業の進捗状況と課題

(1)生活介護事業この里（以下「この里」という。）では、活動において、登録 19 名となり利用者が増えたことに伴い、現状に合わせた作業・余暇活動の見直しを行った。作業活動においては、新たなポスティング業者と業務契約し、新たな制作品の作成にも取り組んだ。余暇活動においては、東京都の運動定着支援事業の効果により、月２回職員主導による運動プログラムを実施した。作業・余暇ともに地域での活動という意識を持って取り組み、地域交流の幅も広がった。今後は、利用者個別の障害特性に合わせた支援への取組を行い、作業・余暇活動での地域資源活用を進めていきたい。

(2)共同生活援助事業ケアホームひかり、ケアホームこの葉(以下「ひかり」「この葉」という。)では、職員配置において、体調不良等の休職及び年度途中の退職による人員不足があり、様々な求人媒体を活用し募集活動を行ってもなお、夜勤や朝番(短時間勤務)の補充はできていない。今後も様々な求人媒体やアピールする機会を活用し、職員体制を整えていきたい。ひかり、この葉ともに利用者の高齢化・重度化が目前の課題となっている。主体的に自身の生活を作っていく支援を継続するとともに、ご本人・ご家族の状況の変化による生活スタイルの変化にも対応できるよう、支援体制を検討していきたい。

(3)KOCO・ジャム短期入所事業（以下、「短期入所事業」という。）では、男性の新規利用者が増え、定期的に利用される方も多く、稼働率も順調に上がった。一方で女性においては新規に希望される方がなく、１名のみの利用にとどまっている。事業運営開始から時間が経過し、利用者数も増え、経験を重ねた利用者も増えた。その中でお一人の利用者がグループホームに入居することとなった。短期入所事業は、体験の機会を提供する場であるので、親元を離れ生活ができるよう生活力をつけること、集団で生活する中でのルールや工夫、譲り合い等を体験できるよう、利用者と一緒に取り組んでいきたい。併せて、今後もグループホームへの入居、地域でアパートを借りての一人暮らし等、目標を利用者と設定し取り組んでいきたい。女性利用者においては、男性利用者の段階までにはいたっていない為、まずはニーズの掘り起こしを行い、利用していただけるよう取り組んでいきたい。

⑷居宅介護支援事業ウイング(以下、「ウイング」という。)では、利用者の高齢化、様々な課題等、障害分野を超えた支援が必要なケースが増えており、介護保険との連携、特に包括支援センターやケアマネジャーと協働して支援に取り組んだ。また、育児支援事業では、継続した支援が必要な場合、支援が終了になる際には子ども家庭支援センターに引き継ぐよう図った。移動支援事業は需要が高く、５名の新規ヘルパーの登録があったが、それだけではまだ需要に応えられていない現状がある。新しい支援形態であるグループ支援を活用し、男性ヘルパーの不足を補いながら、需要に応えられるように体制を整え、引き続きヘルパー確保に取り組みたい。

３．人材育成

各事業において、年度初めのスタッフ会議にて事業計画、方向性を共有し、同じ方向を向いての事業運営となるよう取り組んだ。併せて、職員のやりがいに繋がるよう、スタッフ会議であがった意見は、できる限りチャレンジできるよう図った。令和６年度は、BCP 計画の策定が求められ、従来の内容の改定作業を主任・課長が策定委員会に加わり取り組んだ。策定後は、その内容を主任より、各職員へと説明し、計画の理解に繋がるよう取り組んだ。これらの取組を実施したなかで、所属職員からも質問、意見があり、自分ごととして取り組もうとする積極的な姿勢が伺えた。災害発生時に事業を継続するには、所属する職員の力が必要である。また、利用者の不安を少しでも軽減するには、日頃からの利用者と職員の関係性作りが必要である。引き続き、KOCO・ジャム全体で事業を超えた協力体制を継続し、事業間の理解や日常業務の連携、職員の OJT に繋げていきたい。また、個人の目標やキャリアパス制度に則り、研修や勉強会にはできるだけ多く参加できるよう図り、ステップアップできる環境を整えた。令和６年度は１名が正規職員への転換試験を受け登用となった。次年度は前年度から検討してきた新しいキャリアパス制度を活用し、法人理念を実現するため人材育成、次世代を担う人材育成に努めていきたい。

Ⅰ　生活介護事業この里

Ⅰ．事業全体を振り返って

Ⅰ)事業運営

令和６年度は、特別支援学校より新卒者２名、８月と12月に市外から国分寺のGHに入居した利用者２名、計４名を受け入れ、年度途中で２名が退所した。定員20名まで残り１名となり、設備の問題（主にトイレ）や職員配置から女性の利用者獲得を目指した。男性利用者について、問い合わせはあったが利用まで繋がるケースはなく、女性からの利用希望もなかった。都立武蔵台学園からの実習は２年生２名の希望があったが、体調不良、入院により、いずれもキャンセルとなった。

２）利用者支援

東京都の運動定着支援事業の効果により、月２回職員主導による運動プログラムを実施できるようになった。ポスティング業者とも業務提携し、ポスティング作業が増え、利用者全般のニーズである運動、体を動かす機会をスイミングの機会も含め定期的に安定して提供できるようになった。地域活動の視点においては、様々な催事に参加し、販売活動やフラダンスの披露を行った。新たにけやき公園のフリーマーケットや「笑いと歌の会」に参加し、地域交流の幅が広がった。活動の中で行ってきたミサンガつくりでは、作成した物を活用しコースター、しおりを新たに製品化した。また、利用者の方で、絵が得意な方は動物、はにわ等を描き、それらをしおりやキーホルダーに取り入れ、新たに販売を開始した。また、あじのある字を書かれる利用者に、しおりの裏には四字熟語等を書いてもらった。利用者それぞれの力を発揮し、それを製品化に繋げることができた年度であった。その他、販売会場では、商品を手に取っていただき、お客様より直接感想や、アイディアをいだける機会となっている。

３)職員育成

令和６年度は毎夕時間を設け、支援の振り返りや検証、職員同士の意見交換を行い、支援力の向上につなげた。外部研修に積極的に参加する職員も多く、利用者理解と支援力向上への意欲が感じられた。また、１名の職員が内部転換試験を受け、常勤職員へと転換することとなった。

２．事業計画の個別事業の進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
１．利用者確保及び利用者のステップアップ	・利用者は19名となり、今年度の目標は達成された。利用者の方も休むことなく通所され、利用率も非常に高く、多くの利用者が安定して通所されている。	・定員20名に向け、引き続き女性利用者の獲得を目指す。
	・就労継続Ｂ型どーむ（以下「どーむ」という。）との共同事業は計画の遅れにより、開始できなかった。	・共同事業を行うことで、相互に体験や実習の場としての活用を目指す。
２.作業活動	・買い物代行の顧客確保は達成できなかった。	・エリアの拡大、宣伝方法の見直し等検討を行い、顧客獲得を目指す。
	・地域を意識した新しい活動について、新たにポスティング業者と契約し、作業量が増えたことで、地域に出る機会が増えた。	
	・どーむとの共同事業は計画の遅れから実施できなかった。	・共同事業については、引き続き検討する。

	・利用者の増加にともない、机の配置替えを行い、スペースの確保を行った。	・快適な作業環境、スペースを確保するため、多目的室を含めた作業室以外の場所の活用を検討する。
3．余暇活動	・東京都の運動定着支援事業の効果により、月２回職員主導による運動プログラムを実施できるようになった。令和７年度より、東経大学尾崎ゼミの学生がボランティアとして定期的に参加予定。	・利用者が若い世代のボランティアと楽しく交流できるように、この機会を今後も活用する。また、引き続き地域資源の活用として、年２回体育館を活用する。
	・個別のニーズに合わせた個別活動は１件（ひらがなドリルの作成、実施）のみであった。	・個別支援計画に基づいて、個別のニーズに合わせた活動を、毎月の支援会議で検討し実施する。
	・今年度は新たに「笑いと歌の会」「ふらっとけやき公園（フリマ）」に参加し、活動の幅が広がった。「ハート de フェスタ」に参加して、１年間継続して練習したフラダンスの成果を発表することができた。	・利用者が交代でイベントに携われるように、スケジュールを決めて計画的に実施する。

３．利用者の状況等

１）利用者の状況

年度当初、利用契約者数 17 名で開始。４月に特別支援学校新卒者２名、８月、12 月に各１名利用者を受け入れた。入院療養中であった利用者２名は退院後、転居の為利用終了となった。年度末の契約者数は 19 名であった。

(1)年齢別利用者数（令和７年３月 31 日現在）　平均年齢 32.3 歳　（単位：人）

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	合計
2	8	3	4	1	1	19

(2)利用者の障害支援区分（令和７年３月 31 日現在）　平均 4.5　（単位：人）

区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	合計
0	1	8	9	1	19

(3) 1 日平均利用者数　平均 16.6　（単位:人）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
16.4	16.3	16.3	16.4	15.9	15.3
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
16.7	16.3	16.1	17.3	17.8	18.0

(4)障害手帳（令和７年３月 31 日現在）　（単位:人）

愛の手帳				精神保健福祉手帳			身体障害手帳					
1 度	2 度	3 度	4 度	1 級	2 級	3 級	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級
	13	4	1	1					1			

(6)活動状況

【一週間の主なプログラム】

	月	火	水	木	金
1コマ	仕入れ 野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	仕入れ 野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り センター販売	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り
2コマ	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り センター販売	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り
3コマ	スイミング/ 音楽/ その他余暇活動	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り 公園ボランティア	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り 運動プログラム	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り センター販売	フラダンス/ 話し合い/ その他余暇活動
4コマ	スイミング/ 音楽/ その他余暇活動	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り 公園ボランティア	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り 運動プログラム	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	フラダンス/ 話し合　い/ その他余暇活動

※運動プログラム、武蔵国分寺公園ボランティアは月２回程度

※上記の作業に加え、月１～２回リビング折り・配布、不定期でのお仕事ネットの作業・買物代行、また、時期により法人広報紙封入作業、ニューズレター配架作業を実施した。

【行事】

4月	入所式	3日	利用者17名、職員６名
5月	家族会	31日	参加家族13名
7月	運動プログラム（体育館）	19日	利用者16名、職員９名　ボラ３名
	戸倉盆踊り	27日	職員４名
8月	ミニ縁日	9日	障害者センターと合同で実施。利用者17名、職員７名
10月	運動プログラム（体育館）	1日	利用者18名　職員７名　ボラ３名
	市民活動フェスティバルイベント	5日	利用者１名、職員２名（販売、活動報告）
	市民活動フェスティバル	5～31日	分散型イベントとして開催。
	万葉の里オープンデイ	13日	利用者15名、職員６名
	歯ミカップ	17日	利用者15名、職員６名　ボラ１名（オンライン開催）
	ぶんちっちまつり	19日	職員２名
11月	国分寺まつり	3～4日	利用者２名、職員２名
	運動プログラム（体育館）	19日	利用者18名　職員６名　ボラ５名
	国分寺市ぶんぶんウォーク	22～1日	スタンプラリーの拠点として参加。
12月	プレステマルシェ	1日	利用者１名、職員２名
	ふらっとけやき公園	7日	利用者２名、職員２名
	クリスマス会	24日	利用者19名、職員７名
	大掃除	25～26日	利用者19名、職員６名
1月	笑いと歌の会	5日	利用者２名、職員２名
	運動プログラム（体育館）	21日	利用者19名、職員７名　ボラ３名
2月	ブラッシング指導	3日	利用者17名、職員６名
3月	お仕事ネット20周年イベント	16日	職員１名
	Heart de Festa	22日	利用者18名、職員７名（フラダンス発表）
	家族会	25日	参加家族14名
	納め会お別れ会	31日	利用者19名、職員７名

⑦　その他

＊利用者工賃：毎月 25 日支給

＊見学/実習受入れ：武蔵台学園２年生１名、１年生保護者３名、その他見学４件、
利用実習３名
社会福祉現場体験実習５名(杏林大学)
夏体験ボランティア５名
国分寺市立第一中学校職場体験２名

＊地域施設活用：武蔵国分寺公園、国分寺市障害者センター、本多公民館、ひかり公民館、
子ども家庭支援センター、国分寺プレイステーション、国分寺史跡公園
けやきスポーツセンターこくぶんじ市民活動センター、いずみホール

2　共同生活援助事業　ケアホームこの葉　ケアホームひかり

1．事業全体を振り返って

1)事業運営

今年度は、利用者の健康、安全・安心な生活に留意しつつ、利用者一人ひとりの個別支援計画に則り、ご希望される生活の実現を目指し支援を行った。その中で、利用者本人のみならず、ご本人を取り巻くご家族等の状況の変化も実感する1年であった。そのような状況の中、来年度は、ご本人の希望される生活の実現と共に、状況が変わっても安心・安全に生活を続けることを目指して支援に取り組んでいく。

2）利用者支援

一人ひとりの意思表出・意思決定を大切にし、ご自身で主体的に生活を創っていけるように取り組んだ。利用者自治会を続けることで、利用者の要望を形にし、お互いに影響しあえる関係性を築くことができた。また、前年度に引き続き、身体機能や認知機能についてのアセスメント様式を継続し、利用者の変化を把握し、支援を見直すことにつながった。あわせて生活の充実を目指し、余暇活動にも取り組み、移動支援等のサービスを利用することで、意欲が向上し外出の機会が増えた。

3)職員育成

年度初めにスタッフ会議にて事業計画を共有し、同じ方向を向き、事業を運営できるよう取り組んだ。また、スタッフ会議への参加を促し、ケース検討や支援の振り返りを重ねて、個別支援計画の理解を深めることにより、共通認識を持ち支援に取り組むことができるようになりつつある。その他、世話人である常勤職員と契約職員の業務分担を進めながら、それに応じた研修を行うことで育成に繋げた。世話人会議にて各職員の状況を共有し、OJTの進捗状況を把握することにより、グループホーム間で連携して職員育成に取り組めるように図った。

2．事業計画の個別事業の進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1．安心・安全な生活基盤作り	・一人ひとりのニーズに応じた生活となるよう、個別支援計画に基づく、ニーズに沿った支援を実施した。また、アセスメント様式を活用し、ご利用者の変化に気付くことができ、そのことで支援の見直しに取り組むことができた。また、ご本人の意思表出・意思決定を行いながら、主体的な生活や余暇活動が行えるように努めた。その他、移動支援等のサービスを利用することで、意欲が向上し、生活の幅が広がった。	・アセスメント様式の活用を継続し、利用者の変化に応じて必要な支援を整えていく。また、ご本人だけではなく、ご家族の高齢化に対しても、今後の見通しを立てて、対応を検討していく。 ・ご本人の意思表出・意思決定の機会をいかに作っていくかが課題である。その機会の一つとして自治会を活用する。また、表出された意思を実現するために、計画相談や各サービス提供事業所等との連携強化を図る。
2.職員確保	・体調不良等から職員が不足する状態が続き、求人媒体や職員からの紹介を通して、一定程度職員の確保したものの、採用後、体調不良で勤務継続が難しい状態となり、夜勤や短時間勤務において職員不足が解消できていない。紹介、派遣会社を通しても、職員の応募がない状況が続いている。	・市内の他事業者が活用して効果的であった求人媒体の情報を下半期にいただいた。令和7年度早々、その媒体活用に向け、準備を開始した。好結果に繋がるよう尽力するとともに、現在勤務している職員（短時間勤務）の勤務日数、時間を増やす働きかけも行う。
3．職場環境の改善	・記録ソフトの活用を継続することにより、業務時間の短縮を図ることができた。また、支援記録の見返しを行うことで、記録の書き方や支援の振り返りをスタッフ間で共	・令和6年度より各ユニットでソフトがはいっているタブレットの活用を開始した。今年度の段階は、記録のみの活用に留まっているが、機能としては、服薬の管理

	有することに繋がった。その他、両グループホーム間の職員交流や、男女ユニット間の連携、研修の実施方法の工夫等で、職員間のコミュニケーションの活性化を図った。	等が可能であり、支援の場面にタブレットを導入できるよう工夫したい。 ・年１回の研修を活用し、この葉・ひかり間での職員間の交流を深める。また、男女ユニット間の連携については、更に充実できるようその方法を模索する。

３．利用者の状況等

１）利用者状況

【ケアホームひかり】

(1)利用者数　　12名　（　男性６名　　女性６名　）

(2)年齢別利用者数（令和７年３月31日現在）　　平均47.4歳　　（単位：人）

30代	40代	50代	60代	合計
2	6	3	1	12

(3)利用者の障害程度区分（令和６年３月31日現在）　平均4.1　　（単位：人）

区分３	区分４	区分５	区分６	合計
3	5	2	2	12

(4)障害別利用者数（重複あり）　　（単位：人）

精神障害	知的障害	身体障害	合計
1	11	4	16

(5)行事　誕生日会を利用者毎に実施。５月15日男女ユニット合同にて家族会実施。１月８日地震を想定しての避難訓練を職員のみで実施

(6)会議等の実施状況

定例のスタッフ会議を毎月１回実施。その他、以下の会議を開催した。

名称	開催日等	内容
世話人会議	毎月１回、定期開催	２つのGHの運営面の調整、支援の見直し、家族支援等について検討
個別支援会議	利用者の誕生月及び個別支援計画見直し時	個別支援計画案の検討、確認/相談事業所との連携

【ケアホームこの葉】

(1)利用者数　　15名　（　男性　９名　　女性　６名　）

(2)年齢別利用者数（令和７年３月31日現在）　　平均37.0歳　　（単位：人）

20代	30代	40代	50代	合計
5	4	5	1	15

(3)利用者の障害程度区分（令和７年３月31日現在）　平均4.1　　（単位：人）

区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	合計
4	2	3	0	6	15

(4)障害別利用者数（重複あり）　　（単位:人）

精神障害	知的障害	身体障害	合計
1	13	5	19

(5)行事　誕生日会を利用者毎に実施。５月20日３ユニット合同にて家族会実施。11月13日地震を想定しての避難訓練を職員のみで実施

(6)会議等の実施状況

定例のスタッフ会議を毎月１回実施。その他、以下の会議を開催した。

名称	開催日等	内容
世話人会議	毎月１回、定期開催	２つのGHの運営面の調整、支援の見直し、家族支援等について検討
個別支援会議	利用者の誕生月及び個別支援計画見直し時	個別支援計画案の検討、確認/相談事業所との連携

3　KOCO・ジャム短期入所事業

1．事業全体を振り返って

1)事業運営

今年度は、男性利用者の需要が予想以上にあり、利用日を調整しつつ新規７名の受け入れを行った。利用希望日が重なってしまう懸念もあったが、特別支援学校に在学中の方も多く、週末や長期休暇中のみの利用を希望されたこともあり、それぞれ目的に合った日程で調整することができた。女性利用者においては、グループホーム入居に伴い利用終了となった方が１名、定期利用には繋がらなかったが１名の方が利用された。年度末に定期的に利用されている方は、一昨年度から継続されている方１名のみとなった。

2）利用者支援

今年度は、「グループホームへの移行、地域での一人暮らしを目指した実践の場」という目的を利用者、利用者ご家族とも共有を図るため、受け入れ段階で、丁寧なすり合わせを行い、共通認識を持ち、目標に向けて実践できるよう取り組んだ。また、利用のご希望が様々で、ライフスタイルの異なる利用者を受け入れたことで、支援の幅も広がった。ユニットの利用者自治会に参加し、共に生活を創る体験や、他の方の意見を聞き話し合う機会を意図的に設ける等、グループホーム内に設置されている特徴を活かした支援につなげることができた。

2．事業計画の個別事業の進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1．運営の安定化	・受け入れ時のマニュアルを作成するとともに利用のご希望が様々であることから、個々の支援マニュアルを作成した。	・利用を希望される目的、目標は個々に異なる。それらの実現に向けた過程をとおして、各段階でのアセスメント、必要なサポート、関係機関との連携等について、支援に関わる視点を習得するとともに、利用から目標達成までの支援計画の作成に繋がるよう取り組みたい。
	・男性の新規利用者７名を受け入れ、登録数８名となった。女性においては、１名がグループホーム入居にて終結となり、新規利用者もいなかった為、目標としていた３名の定期利用には至らなかった。	・女性の新規利用者の獲得を目指す。男性利用者については、グループホームへの移行、地域でアパートを活用しての一人暮らしを目指す等、利用者と目標を共有し支援を行う。これらのことに取り組むことで、利用者が循環し新規利用者を受け入れられるよう取り組む。併せて、所属職員と目標に向け、支援方法、内容、どのように今後ステップを踏むか等、理解し取り組めるよう、話し合う機会を設け、情報の共有を図っていきたい。
2.利用者支援の充実	・スタッフ会議にて、各利用者の支援経過を振り返り、統一した方向性で支援を行うことができた。	・スタッフ会議に参加できない職員への共有が不十分であった為、会議日程等の見直しを行い、職員が参加しやすい環境を整える。
	・支援力向上に向けて e-ラーニングを活用し、テーマに沿った計画的な研修の実施を目指したが、職員の入れ替わり等もあ	・利用者お一人おひとり障害は異なり、その特性も異なる、学ぶことで、理解が深まることがあるため、新入職職員に留

	り、充分に実施できなかった。	まらず、研修計画をたて、計画的な研修の実施に取り組む。

3．利用実績

(1)利用者数　　11名(男性8名　女性3名)

(2)年齢別利用者数（令和7年3月31日現在）平均28.4歳　　（単位：人）

10代	20代	30代	40代	50代	合計
2	4	2	2	1	11

(3)利用者の障害支援区分（令和7年3月31日現在）　平均3.1　　（単位：人）

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
2	3	2	1	2	1	11

(4)障害別延利用泊数　　（単位:泊）

	精神障害	知的障害	合計
4月	0	12	12
5月	0	13	13
6月	0	10	10
7月	0	12	12
8月	0	11	11
9月	0	10	10
10月	0	13	13
11月	0	16	16
12月	0	13	13
1月	0	16	16
2月	0	17	17
3月	0	15	15
合計	0	158	158

4　居宅介護事業所ウイング

1．事業全体を振り返って

1)事業運営

今年度もコーディネーター２名体制での運営を行った。受け入れに関しては、特に移動支援の依頼が多くあった。女性利用者に関してはある程度、希望にこたえることができたが、男性利用者に関しては、依然男性ヘルパーの不足が続いており、需要に応じた支援ができていない。育児支援に関して、有資格ヘルパーをコーディネートしても、先方の都合でキャンセルになることが続き、安定した支援につながらなかった。このことについては、担当所管である子ども家庭支援センターに伝え協議を行った。令和７年度より資格要件が緩和されることとなり、支援依頼も担当所管からではなく、利用者から直接入ることとなる予定である。

2）利用者支援

他事業所や他機関との連携を深めるため、関係者会議やケース会議等に、管理職、主任が参加できるよう体制を整えた。また、課題が発生した際に、他事業所や他機関と共に解決できるよう、発信や情報共有を図った。利用者の高齢化により入院や体調不良等で、支援体制の変更が必要になるケースが多くあった。そのため、特に介護保険のケアマネージャーと連絡を密に取り、連携して支援体制を整えた。

3)職員・介護人育成

新規登録ヘルパーには不安を解消して一人で稼働できるまで、サービス提供責任者もしくはベテランヘルパーが同行し介助方法や利用者の特性を伝えた。移動支援連絡会では、加盟する事業所と合同でヘルパー研修を行った。講義のあとに、他事業所のヘルパー同士が意見交換する時間を設け、事業所を超えて交流することができ、良い機会となった。

2．事業計画の個別事業の進捗状況と課題

事業名	到達状況	課題
1．運営体制の安定	・居宅支援において、3～4名の新規受け入れを目指したが未達成であり、育児支援においても予算値を下回った。受け入れ上限数においても60～65 名の目標は達成できなかった。 ・令和７年度４月から法人内職員異動によりサービス提供責任者が変更となるため年度内に業務、支援の引継ぎを行い、支援件数や時間数を減らすことなく維持できる体制を整えた。	利用者の高齢化に伴い、介護保険への移行などで居宅の支援件数が減った。移動支援に関しては依頼が増加し、要望に応えきれていない状況であった。今後は、利用希望の多い移動支援の時間数を増やし、支援時間数が伸びにくいサービスを補い、運営のバランスを図りたい。
2．ヘルパー確保と定着	・移動支援連絡会ガイドヘルパー養成講座参加者から１名の登録があり、稼働を始めた。今年度は移動支援４名、同行援護１名、計５名の新規登録があった。 ・年４回の開催を目指したヘルパー会議であったが、開催は２回までとなった。多くのヘルパーが参加できるように平日、休日に分けて開催した。９名のヘルパーの参加があり、個人情報保護、虐待防止（身体拘束）に関する研修を行った。研修後は、	これまでとは異なる求人媒体（インターネットでによる求人媒体）の活用を検討し、特に男性ヘルパーの獲得を目指す。 会議の開催日数を増やす、会議日程の連絡を早めにするなどして、より多くのヘルパーが参加できることを目指す。

	それぞれの仕事について現状報告、仕事への想いを共有した。ヘルパーより、発言が活発にあり、良い交流の機会となった。	

3．利用者の状況等

(1)派遣状況

	派遣時間（時間）	利用者（人）	居宅	重訪	同行	移動		育児	エル
						知的	児童		
4月	647.00	65	29	6	9	16	0	4	1
5月	716.00	70	29	6	10	19	0	4	2
6月	660.00	69	29	5	10	18	0	5	2
7月	696.50	67	27	6	12	17	0	2	3
8月	619.50	58	28	6	9	14	0	1	0
9月	626.50	67	29	6	8	21	0	2	1
10月	694.50	68	29	6	10	19	0	3	1
11月	663.50	67	29	6	10	18	0	3	1
12月	629.00	67	28	6	10	18	0	3	2
1月	671.00	66	30	6	9	19	0	2	0
2月	597.75	67	30	5	10	20	0	2	0
3月	616.50	66	29	5	11	19	0	1	1
合計	7837.75	797	346	69	118	218	0	32	14

(2)サービス別派遣時間

	身体介護	家事援助	重度訪問	同行援護	知的移動	児童移動	育児支援	エル	合計
4月	28.50	136	204.5	120	131	0	18	9	647.00
5月	33.50	131	238.5	124	162	0	18	9	716.00
6月	33.00	118.5	215	121.5	147.5	0	15.5	9	660.00
7月	38.50	125.5	239	117	156.5	0	7	13	696.50
8月	31	95.5	219	123	143.5	0	7.5	0	619.50
9月	27.50	107.5	207	123	150	0	10.5	1	626.50
10月	31.50	121	236	150	143	0	12	1	694.50
11月	27.50	117.5	219.5	139.5	148	0	10.5	1	663.50
12月	31.50	100	223.5	114	145	0	12	3	629.00
1月	30	109.5	218	137	169	0	7.5	0	671.00
2月	24	109.25	186	107.5	159	0	12	0	597.75
3月	26.50	112.5	185	120	167.5	0	3	2	616.50
合計	363.00	1383.75	2591	1496.5	1822	0	133.50	48	7837.75

(3)会議等の実施状況

定例会議を毎月実施。(管理者、課長、サービス提供責任者出席)

ヘルパー会議及びヘルパー向け研修会を、下半期に２回実施。

Ⅳ 基幹相談支援センター事業部門

１．事業全体を振り返って

１）事業運営

今年度は、職員体制が大きく変更となった。そのような状況の中で、仕様書にある業務を確実に取り組んでいくことに尽力した。一つひとつの業務について、その目的や内容、実施方法等を確認しながら取り組み、新たな視点を持ち寄り対応してきた。結果、委託業務については確実に終了させることができた。

市内の計画相談が不足している状況が続いているが、相談支援事業所連絡会において、新たな取組を開始した。新規で計画相談を希望する方が契約する相談支援事業所が見つからなかった場合に、基幹に情報を集約し、相談支援事業所連絡会で対応可能な事業所がないかを確認する。この取組も含めて、今年度計画相談を希望した 97.9%の方が相談支援事業所と契約をすることができた。一方で、計画相談の利用を希望しているセルフプランの方が多くいるため、引き続き計画相談を希望する方、必要な方に支援を繋げていけるよう取り組んでいく。また、主任相談支援専門員が中核的な役割として、相談支援専門員への助言や指導等のサポート、相談支援事業所連絡会の運営や研修、相談支援従事者研修の実習受講者へのレクチャー等、様々な場面に参画いただいた。引き続き、連携して相談支援の強化と充実に向けて取り組んでいく。

２）利用者支援

多種多様な相談が寄せられる中、支援ニーズも複雑化・複合化したものとなってきている。利用者支援においては、様々な関係機関が協働し、分野を超えた連携のもと、横断的かつ一体的な相談支援体制の構築が求められている。地域ネットワークの構築と拡大の取組の一つとして、地域包括支援センター（以下、包括）・社会福祉協議会（以下、社協）・基幹の３者での意見交換の場を設けた。高齢福祉課と障害福祉課の間で協議され、障害者の 65 歳での移行や介護保険へのサービス調整に関しては、その手続きが明確にされたところである。一方で、8050 問題の 50 の方への関りに困難がある相談が増加しており、課題解決に向けて３者で連携の方法や役割分担等、協議を開始した。その他にも、つくしんぼと児者転換ケースの引継ぎや取組についての協議、子ども家庭支援センター（以下、子家庭）と障害福祉課とは要支援家庭への支援における連携や課題、今後の連携のあり方等についての協議を実施した。

３）人材育成

基幹に新たに配属された職員もおり、初心に戻って、基幹の役割を確認し合い理解を深め、意見交換をしながら一つひとつの業務に取り組んできた。年度途中において、コミュニケーション不足や説明不足により、互いに意図が伝わらないということもあったが、チーム全員で本音や課題を率直に話し合う機会を持ち、日々のコミュニケーションを丁寧に行うなどの改善を図りつつ、チーム作り、チームワークの向上に努めた。引き続き、職員一人ひとりがそれぞれの役割を担い、持っている力を発揮することができる風通しの良いチーム作り、職場環境作りに取り組んでいく。

２．事業計画の個別事業の進捗状況と課題

１）相談支援事業所訪問

(1)相談支援専門員との面談：全 10 事業所のうち９事業所と面談実施。１事業所は先方の都合により中止。下半期に開設した新規事業所に対して、市内の相談支援体制や拠点等についての説明を行った。

(2)相談支援従事者研修の対応：主任相談支援専門員とともに従事者研修実習に対応した。相談支援現任研修では６名に、相談支援初任者研修では 10 名に対応した。初任者研修では、主任相談支援専門員の対応と併せて、基幹より市内の相談支援体制についての説明を行った。

(3)相談支援体制検討プロジェクト：協働型機能強化の取組が途中まで進んでいたが、事業所の事情により中止となった。新年度も市とともに取組を働きかけていく。

２）コンサルテーションの実施

積極的にコンサルテーションの活用を働きかけ、年間で５事業所、９ケースを実施した。課題が複雑・多岐に渡るケースが増加しており、利用者の関係している機関や事業所にも参加を促し、支援方法や利用者に対する視点等を共有した。また、新たな講師等についても検討し、活用に繋げた。

３）相談支援専門員研修

(1)新任研修：８月に実施。新たな報酬改定の内容や加算等について市より説明を受けた。

(2)ブラッシュアップ研修：主任相談支援専門員と協議し、相談支援専門員の知識・技術を向上させるための内容と地域の社会資源を学ぶ内容で４回実施。

(3)事例勉強会：「野中式」による事例勉強会を２回実施。１回は精神科病院と連携して共同で実施した。

(4)その他：新たな取組として「相談支援専門員グループワーク」を実施。相談支援専門員が計画相談を実施する中での悩みや迷い、相談支援専門員の役割はどこまでかといった内容について、事業所の枠を超えて意見交換をした。

４）支援者向け虐待防止研修

市内の福祉関係者に向け、12 月に会場とオンラインにより、強度行動障害の理解や適切な支援を通して、虐待防止につなげる内容で実施した。

５）地域ネットワークの構築・拡大

(1)ネットワーク研修Ⅰ（地域移行）：７月に実施。地域移行後に受け入れる側となる、地域の訪問看護事業やグループホームの支援について学ぶ機会とした。また、地域移行した当事者のインタビューも動画で紹介をした。

(2)ネットワーク研修Ⅱ（高齢分野－障害分野）：10 月に実施。共生型サービスの特色や事業運営を通して、高齢障害者の支援や、高齢分野と障害分野の連携のあり方について学んだ。また、初めてシンポジウム形式を取り入れて実施した。

(3)ネットワーク研修Ⅲ（障害児）：令和７年２月に実施。家族全体をとらえたかかわり方をテーマに、生きづらさを抱える子どもとその家族への支援を通して、家族全体への視点を持つことの大切さを学んだ。

(4)その他

・包括６事業所への訪問。

・包括/社協/基幹の意見交換会、子家庭/障害福祉課/基幹、つくしんぼ/障害福祉課/基幹の意見交換会の実施。

・新任ケアマネ研修や生活支援隊養成研修、くぬぎ教室スタッフ研修、公民館主催地域ボランティアサロンに、講師依頼を受けて対応をした。

６）自立支援協議会マネジメント業務

自立支援協議会全体会、各部会、各連絡会において、市と基幹が事務局として連携して実施。

(1)自立支援協議会全体会：年３回実施。「個々の多様なニーズに応えるため相談支援体制の充実・強化を図る。」をテーマとして協議が行われた。実施前には会長との打合せや事務局会議を実施。会議記録は基幹で全文記録を作成。

(2)相談支援部会：年３回実施。相談の質、意思決定支援、施設入所者の地域移行等について協議した。

(3)就労支援部会：年３回実施。法定雇用率引き上げと特定短時間雇用、販売機会の拡充、お仕事ネットワーク 20 周年イベント等について協議が行われた。

(4)精神保健福祉部会：年３回実施。精神科病院との連携、普及啓発活動、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」構築の検討、居住支援等について協議が行われた。

(5)相談支援事業所連絡会：年 12 回実施。情報共有や専門員のスキルアップはもちろんのこと、相談支援専門員の困りごとなどについても協議を実施。ブラッシュアップ研修や事例勉強会の実施とともに、部会に紐づいた課題の協議をした。新たな取組として、新規計画相談の受付方法を協議し実施した。

(6)障害児通所支援事業所連絡会：年２回実施。各事業所の取組を共有し、利用者の欠席時の対応や防災対策等について意見交換を行った。

(7)地域移行等支援連絡会：年 11 回実施。精神科病院との連携に取り組み、精神科病院との共同での事例勉強会やピアの方にも参加していただき、地域移行への促進の取組を実施した。
(8)ニューズレターの制作・発行・配布：年２回、第 15 号と第 16 号を発行。第 15 号では新規事業所も含め、相談支援事業所を特集。第 16 号では市内の３か所の共生型サービスを特集した。
(9)相談支援部会の防災まとめサイトの管理・運営：上半期に市の「ぶんぶんチャンネル」でも紹介され、一定程度の成果が出せたとのことで、相談支援部会での取組は終了している。各サイトの更新状況の確認等は、必要に応じて対応をした。
(10)上記以外に、自立支援協議会担当者連絡会/自立支援協議会交流会にセンター長が参加した。
７）市との定例協議、その他連絡会等
(1)毎月、定例協議を実施し業務の進捗状況を確認した。その他にも、必要に応じて連絡を取りあった。
(2)高齢者/障害者実務従事者虐待防止ネットワーク、地域ケア会議権利擁護部会、消費者見守りネットワーク協議会、権利擁護地域連携ネットワーク会議には、センター長が委員として参加した。
(3)権利擁護関係機関連絡会、発達障害者支援関係機関情報交換会、高次脳機能障害関係機関連絡会には、センター長と職員が参加した。
(4)基幹相談支援センター連絡会には、センター長と主任で参加した。
(5)医療的ケア児支援関係者会議と事務局会議に、主任が副会長として、センター長が事務局として参加した。
(6)地域包括支援センター全体会に、高齢福祉課の依頼を受けて主任相談支援専門員とともに参加した。
８）緊急度の高いケースの情報把握と緊急入所保護事業
(1)市からの依頼や相談支援専門員の要望により、利用者宅への訪問や説明に同行することとなっているが、今年度は依頼がなかった。
(2)市、障害者センターとともに、緊急入所保護事業実施時の業務フローや利用相談受付票（聴き取り票）についての見直しに取り組んだ。下半期より見直した内容で運用を開始した。
(3)24 時間 365 日対応の緊急用携帯は、センター長、主任、職員２名で対応をした。
９）地域生活支援拠点としての役割
「体験の機会・場」として、三か月程度の一人暮らしを体験できるミドルステイ事業が、昨年度より開始されているが、今年度の利用はなかった。検証を行い、課題の整理と更なる周知が必要と思われる。

３．人材育成
１）業務の確認
(1)業務においては、基幹の役割を理解し、常に確認をし合うことや引継ぎ等を意識的に取り組んだ。不定期に開催していた基幹会議も、上半期途中から月２回定期的に実施することとした。
(2)「2023 アニュアル レポート」を７月に発行した。市とも協議をし、次年度以降は業務効率や経費削減を考慮し、内容を変更する予定である。
２）職員研修・OJT
(1)課長面談を ８ 月に実施した。新たなチームの中で、基幹の業務や機能、各職員の役割等を確認した。
(2)多摩精神保健福祉センターや中部総合精神保健福祉センター開催の精神保健福祉研修を中心に、年間で 39 研修に参加をした。研修参加の目的として、職員個々のスキルアップと併せて、基幹主催研修の講師探しがあり、今年度も研修を通して知った方に数名依頼した。
(3)センター長は相談事業をより深く理解するために、相談支援従事者初任者研修を受講した。
(4)基幹内に医療的ケア児等コーディネーターを配置するため、主任が養成研修を受講した。
３）実践研究・実践報告
　法人内において、基幹の業務に対して十分な共有が得られていない状況がある。そのため、法人内部での連携強化を目指し、法人職員に基幹についてのアンケートを実施した。その結果を基に、基幹の業務や役割と法人の各事業との繋がり、基幹の活用方法等について発表した。基幹の業務を知ることで支援に活用してもらえるよう取り組んだ。

4．活動実績

1）令和６年度 相談業務実績　相談支援件数 4,059 件

2）個別ケースに関わる相談業務

(1)支援方法別件数

	訪　問	来所相談	同　行	電話等相談	電子メール	個別支援会議	その他	計
件数	203	141	7	1,282	97	20	46	1,796

(2)支援内容の内訳（重複あり）

	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や症状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援
件数	1,080	523	353	498	13	353	200	402
	就労に関する支援	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	虐待防止に関する支援	地域移行・地域定着に関する支援	その他（介護保険・8050 題）	その他	計
件数	111	85	51	22	282	131	236	4,340

※「その他（介護保険・8050 問題）」については、相談件数増加により９月より新たに集計。

3）地域のネットワーク体制の構築及び研修等に関わる業務

(1)支援方法別件数

	訪　問	来所相談	電話等相談	電子メール	その他	計
件数	163	188	846	995	71	2,263

4）月別対応件数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
個別相談	99	126	118	161	136	81	159	188	194	167	200	167	1,796
対応ケース	44	42	40	48	48	36	45	42	54	32	42	43	516
下段：その内新規ケース	9	16	8	14	11	12	16	18	14	11	16	14	159
個別相談以外	166	234	217	216	184	218	212	214	183	153	141	125	2,263

5）地域の相談支援事業者の研修等

日時	テーマ及び内容	対象	備考
5月16日	【ブラッシュアップ研修】 テーマ：国分寺市社会福祉協議会の事業について ①国分寺市社会福祉協議会について ②自立生活サポートセンターこくぶんじの事業 ③権利擁護センターこくぶんじの事業 ④地域福祉コーディネーターの業務 ⑤重層的支援会議及び支援会議の活用方法等 講師：国分寺市社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター　野村 拓夢氏、山崎 祐佳氏 権利擁護センターこくぶんじ　栗林 由理氏、駒井 麻樹氏 自立生活サポートセンターこくぶんじ　岡倉 美涼氏 佐々 寛行氏 会場：KOCO・ジャム 2階多目的室	相談支援事業所	参加者 13名
7月25日	【ネットワーク研修Ⅰ（地域移行）】 テーマ：「地域移行支援 in 国分寺 ～居住の場で行われている支援について～」 講師：（社福）はらからの家福祉会 地域生活支援センタープラッツ所長　中野 悟氏 （一社）アルデバラン　リアン訪問看護ステーション 所長　小野 加津子氏、作業療法士　角田 知子氏 会場：リオンホールAB	・相談支援事業所 ・地域活動支援センター ・精神科病院 ・訪問看護ステーション ・障害福祉サービス事業所 ・居宅介護事業 ・社会福祉協議会 ・地域包括支援センター ・行政	参加者 41名
8月29日	【新任研修】 テーマ：報酬改定及び支給決定基準等について 講師：障害福祉課事業推進係 係長　千田 孝一 会場：KOCO・ジャム 2階多目的室 【ブラッシュアップ研修】 テーマ：サービス等利用計画の書き方について 講師：（社福）万葉の里 地域活動支援センターつばさ 副主任　小杉 理氏（主任相談支援専門員） 会場：KOCO・ジャム 2階多目的室	・相談支援事業所	参加者 14名
9月19日	【相談支援専門員グループワーク】 テーマ：計画相談を実施するにあたり、 これって相談支援専門員の仕事？ 相談支援専門員としてどこまでやれば良いのか？ 会場：KOCO・ジャム 2階多目的室	・相談支援事業所	参加者 13名
10月17日	【ブラッシュアップ研修】 テーマ：①子育て相談室の説明 ②ヤングケアラーの支援について 講師：子ども家庭部子育て相談室 係長　小林 亜紀氏 子ども家庭部子育て相談室 ヤングケアラーコーディネーター 久保 恵美子氏 会場：KOCO・ジャム 2階多目的室	・相談支援事業所	参加者 16名

10月31日	【ネットワーク研修Ⅱ（高齢福祉－障害福祉）】 テーマ：「高齢福祉と障害福祉の共生型サービスについて」 講師：（一社）一粒福祉会 デイオアシスまほろば 代表理事　佐々木 美知子氏 （一社）介護グループふれあい SUN salon 施設長　外崎 淳子氏 （社福）けやきの杜 小規模多機能むさし 管理者　高下 かおり氏 障害福祉課事業推進係 係長　千田 孝一 会場：リオンホールAB	・相談支援事業所 ・障害福祉サービス事業所 ・地域包括支援センター ・居宅介護事業 ・社会福祉協議会 ・自立支援協議会 委員 ・行政	参加者 38名
11月21日	【事例勉強会】 テーマ：野中式事例検討について　①野中式の説明　②事例検討 講師：①（社福）ときわ会 地域生活支援センターあさやけ 花形 朗子氏 ②ファシリテーター　花形 朗子氏 事例提供　小杉 理氏（地域活動支援センターつばさ） 板書　毛塚 和英氏 （地域生活支援センタープラッツ） 会場：KOCO・ジャム 2階多目的室	・相談支援事業所 ・根岸病院PSW	参加者 17名
12月13日	【支援者向け虐待防止研修】 テーマ：「強度行動障害の状態にある方への支援 ～支援者としての基本姿勢と支援のポイント～」 講師：（社福）嬉泉 大田区立こども発達センターわかばの家 施設長　沼倉 実氏 会場：リオンホールAB＋オンライン	・相談支援事業所 ・地域活動支援センター ・障害福祉サービス事業所 ・居宅介護事業 ・障害児通所 事業所 ・地域包括支援センター ・特別支援学校 ・保育園 ・児童館 ・学童保育所 ・行政 ・その他	参加者 208名
1月17日	【事例勉強会】 テーマ：根岸病院合同事例勉強会（野中式事例検討） 講師：ファシリテーター　小杉 理氏 （地域活動支援センターつばさ） 事例提供　根岸病院PSW 板書　毛塚 和英氏 （地域生活支援センタープラッツ） 会場：根岸病院 地下1階 根岸ホール	・相談支援事業所 ・根岸病院看護師 ・根岸病院OT ・根岸病院PSW	参加者18名
2月5日	【ネットワーク研修Ⅲ（障害児）】 テーマ：「家族全体をとらえたかかわり方 ～”困っている“親と子に支援を届ける～」 講師：NPO法人 東京フレンズ 理事長/ 日本社会事業大学 非常勤講師　西隈 亜紀氏 会場：リオンホールAB	・相談支援事業所 ・地域活動支援センター ・障害児通所事業所 ・障害福祉サービス事業所 ・保育園 ・行政	参加者43名
2月20日	【ブラッシュアップ研修】 テーマ：障害児に関する計画相談について 講師：元つくしんぼ相談支援専門員　馬上 弘子氏 会場：KOCO・ジャム 2階多目的室	・相談支援事業所	参加者16名

6）権利擁護等に関わる研修及び会議への出席

月	日	研 修 名	主 催	参加人数
4	24	法人個人情報保護研修	社会福祉法人万葉の里	5名
5	29	権利擁護関係機関連絡会	社会福祉法人国分寺市社会福祉協議会 権利擁護センターこくぶんじ	3名
6	20	国分寺市地域ケア会議　権利擁護部会	国分寺市 高齢福祉課	2名
6	20	国分寺市消費者見守りネットワーク 協議会	国分寺市 経済課	2名
7	12	国分寺市障害者虐待防止ネットワーク 実務者会議	国分寺市 障害福祉課	1名
7	12	国分寺市高齢者虐待防止ネットワーク 実務者会議	国分寺市　高齢福祉課	1名
8	2	法人内虐待防止管理者研修	社会福祉法人万葉の里	1名
8	3	任意後見制度　～公証役場の取組～	NPO法人成年後見ウィル 社会福祉法人国分寺市社会福祉協議会	2名
8	17	わかりやすい障害年金	地域活動支援センターつばさ	5名
8	28	国分寺市消費者見守りネットワーク 協議会	国分寺市 経済課	2名
9	4	東京都障害者虐待防止・権利擁護研修	公益財団法人東京都福祉保健財団	1名
9	6	法人内虐待防止研修	社会福祉法人万葉の里	4名
10	23	権利擁護関係機関連絡会	社会福祉法人国分寺市社会福祉協議会 権利擁護センターこくぶんじ	3名
1	16	国分寺市地域ケア会議　権利擁護部会	国分寺市 高齢福祉課	1名
1	16	国分寺市消費者見守りネットワーク 協議会	国分寺市 経済課	1名
1	16	権利擁護地域連携ネットワーク会議	社会福祉法人国分寺市社会福祉協議会　権利 擁護センターこくぶんじ	1名
1	25	まちで暮らす ～安心して住み続けるために～	社会福祉法人はらからの家福祉会	1名
1	31	法人内虐待防止研修	社会福祉法人万葉の里	4名

Ⅴ　法人全体の取組

１．職員研修

令和６年度も引き続き、職員一人ひとりが必要な知識、介助技術を学ぶことができるよう「サポーターズカレッジ」を活用した。新任職員が入職後数日間、座学を学ぶ機会、課題となっているテーマについて職員個々が学ぶ機会として、それに加え、今年度は 15 分という短い構成であることを活かし、事業の会議にて視聴し、その後グループワークを行うこととして活用した。また、講師を招いての内部研修（記録の書き方研修、事例検討、医務研修等、虐待防止研修等）について、年間で計画をたて、確実に実施できるよう取り組んだ。内部研修では、企画をした事業以外の職員も参加できるよう職員会議にて案内を行い、学ぶ機会の提供に積極的に取り組んだ。サービスを提供する中で、悩むこと、前向きに取り組むことが難しくなること等あるが、「学ぶ」ことで、考えが少し整い、講師より努力していることを伝えていただくことで、気持ちが少し明るくなることもあり、引き続き、「学ぶ」機会の提供に、積極的に取り組んでいきたい。また、外部研修に参加した職員が、職員会議にて報告する取組を今年度も継続、計７名の職員が実施した。発表するにあたって、業務が増えること、当日の緊張感等、様々な影響はあったが、発表後の表情は一様に清々しいものがあった。学んだことを伝える、学びを支援にどう活かすか、そして伝わるようどう発表するか、それぞれが一生懸命考え、取り組んだことは、自信に繋がっていると思われる。次年度も引き続き取り組みたい。

２．利用者の声を聴く取組

指定管理事業として運営しているセンターでは、通所事業、短期入所事業において「第三者評価」その他の事業については「利用者アンケート」を実施した。また、KOCO・ジャムでは、ケアホームと短期入所事業にて第三者評価を実施した。今回の第三者評価では、「満足度」について、直接回答する質問はなかった為、生活介護事業「ここでの活動は楽しいですか」、自立訓練事業「事業所での活動は、生活する力をつけることに役立っていますか」、就労継続支援事業Ｂ型「ここでの活動は、あなたの就労に向けた知識の習得や能力の向上に役立っていますか」、短期入所事業「利用中の生活はくつろげていますか」また、KOCO・ジャム内の両事業については、ともに「利用中落ち着いて過ごせていますか」の回答をもとに報告する。その他、利用者アンケートについては、満足度について数値を活用し報告する。

		回答者数	大変満足（はい）		満足（どちらかといえばはい）		満足計	
		人	%	人	%	人	%	人
第三者評価	生活介護	38	97.3	37			97.3	37
	自立訓練	9	66.6	6			66.6	6
	就労Ｂ型	12	75	9			75	9
	短期入所事業（国分寺市障害者センター	25	88	22			88	22
	ケアホームこの葉	15	80	12			80	12
	短期入所事業（KOCO・ジャム）	2	100	2			100	2
利用者アンケート	日中	14	57.1	8	28.6	4	85.7	12
	計画相談	110	64.5	71	20.9	23	85.5	94
	地域活動支援センター	19	68.4	13	26.3	5	94.7	18
計		244	73.8	180	22.4	32	86.9	212

3．広報活動・地域交流

法人広報誌「ことのは」、各事業にて発行している通信を定期的に発行した。「ことのは」は今年度より、経費面からデザイン会社を変更したが、担当の方が会議に参加しご意見をくださることで、広報担当者も新たなことを知る機会となっており、今後もいただいたご意見を誌面の充実に繋げていきたい。また、10月に行われたオープンディの情報発信として「Instagram」を初めて活用した。利用者の方と作成した大きな木の作品に、日めくりを設け、「あと〇日」と画像つきで発信した。その後も、イベントの告知として「Instagram」を活用したが、HPとは異なる発信のツールとして効果が高いと思われる。今後も内容を分け、HP、「Instagram」を発信のツールとして活かしていきたい。

①定期刊行物　「広報万葉の里」の発行

NO	発行時期	主な内容
No77	2024年10月 秋号	「特集　防災～安全と安心は自分たちでつくる～」 万葉コレクション（事業紹介）「生活介護事業この里」 Lets「理学療法士」 ういず「職員リレー紹介」・いやしけよごと・編集後記
NO76	2025年4月 春号	「特集　「普及啓発」の取り組み～必要な配慮を日常に取り入れるヒント～」 万葉コレクション（事業紹介）「短期入所事業えんじゅ」 Lets「東京経済大学コラボ事業」 ういず「職員リレー紹介」・いやしけよごと・編集後記

②各事業で企画や予定をお知らせするため定期的に便りを発行した。

名称	発行回数	配布先
太陽だより	月1回12回発行	生活介護事業太陽利用者/利用者ご家族
つばさだより	月1回12回発行	地域活動支援センター利用者
この里だより	月1回12回発行	生活介護事業この里利用者/利用者ご家族

4　会議の開催

(1)　内部会議　下表のとおり、それぞれの役割・職域に応じた会議を開催した。また、各事業のスタッフ会議を定期的に実施した。

会議名	開催日時	参加者	議案・内容
経営会議	毎月第4木曜日12回開催	理事長・副理事長・常務理事 各部門長・センター長	各拠点からの報告、予算執行状況について情報を共有した。また、改善を要する案件については、意見交換を行い、改善策が見出させるよう取り組んだ。
部門会議	毎月1木曜日12回開催	各部門長・センター長	キャリアパス制度、実践研究・実践報告、法人内人材交流等、法人全体に関わる内容について協議した。
課長会議	毎月第2,4金曜日24回開催 （国分寺市障害者センター） 毎月2木曜日12回開催	各課長	各課に共通する案件、利用者支援、運営上の課題等について、検討を行うと共に情報共有を行った。
職員会議	毎4水曜日12回開催	法人職員全員	法人の事業について報告し情報共有する場として実施した。
衛生委員会	毎月第3金曜日12回開催	産業医・管理者・衛生管理者 職員の代表1名	産業医の意見を受けながらの運営は、昨今重要度が高まっている。職員の労働環境、メンタルヘルス、感染症への対応等、様々な運営上の課題について検討を行った。その一つとして、今年度より職員が産業医に相談できるツールとしてウェブを活用した「ヘルスケア相談窓口」を設置した。

虐待防止委員会	毎月第１木曜日 12 回開催	各部門長・センター長	職員への啓発活動として実施する虐待防止研修の内容について協議した。
身体拘束検討委員会	３ヶ月毎	各課長・看護主任 主任（必要に応じて）	身体拘束に関わること、職員への啓発活動について協議した。
給食会議	毎月第２金曜日 12 回開催	支援１,２課長・主任看護師・給食業者・各事業担当・総務課担当者	給食について情報共有、検討を要する事柄について検討を行った。
広報委員会	毎月第４水曜 12 回開催	総務課担当者・各部門担当者	年２回発行する広報誌について、掲載する原稿、写真と時間をかけ精査し発信したい内容が利用者、関係団体の方に届くよう取り組んだ。
送迎会議	毎月第２火曜日 12 回開催	送迎担当・送迎事業者	送迎について情報共有を行い、課題を共有、検討を行った。
BCP 策定検討委員会	不定期（KOCO・ジャム、国分寺市障害者センター２拠点に分かれ開催）	各部門長・センター長・総務課担当者・支援４課長・ケアホーム主任	現行の BCP 計画を活用しながら、現況に併せての改訂作業を行った。

(2)関係機関との連絡会

種別	開催日時	参加者	議案・内容
国分寺市との連絡会	令和６年７月５日 令和７年２月６日	国分寺市障害福祉課　６名 社会福祉法人万葉の里　５名 国分寺市障害福祉課　６名 社会福祉法人万葉の里　５名	国分寺市障害者センター運営報告と課題の説明、共有を行った。
国分寺障害者団体連絡協議会	令和６年 12 月５日	国分寺障害者団体連絡協議会　11 名 社会福祉法人万葉の里　８名	社会福祉法人万葉の里が運営している事業について意見交換等。

５．ボランティア・実習生の受け入れ

生活介護事業太陽・この里では、共にボランティアの方を講師として余暇活動に取り組んだ。また、養護教諭を目指す方の実習として５名、市内公立中学校、私立中学校、ボランティアデンターより９名受け入れた。下半期においては、国分寺市立公民館主催「地域ボランティアサロン」の講師として基幹相談支援センター長が、法人のアピールとして部門長が参加した。結果１名の方がボランティアとして、その他１名の方が短期入所事業の介護人登録に繋がった。ボランティアや実習生として関係から始まり、その後雇用に繋がる可能性があることを今回経験した。介護人不足が課題の一つとして挙げられており、引き続き法人に繋がる入口として今後も活用していきたい。

６．安全管理・防災訓練

国分寺市障害者センター、KOCO・ジャムと以下の内容にて、それぞれ訓練を実施した。

【国分寺市障害者センター】

	第１回	第２回
日時	令和６年９月 17 日 10～11 時 （火災想定）	令和７年３月 26 日 10～11 時 （火災想定）
参加者	利用者・職員 76 人	利用者・職員・ボランティア 64 人

【KOCO・ジャム】※ケアホームは、職員のみの参加。地震を想定しての対応等について訓練を実施した。

	第１回	第２回	ケアホームこの葉	ケアホームひかり
日時	令和６年８月 12 日～ ８月 30 日 （動画「ネットで自衛消防訓練」東京都消防庁視聴）	令和６年 11 月８日 14 時半～15 時 （地震想定）	令和６年 11 月 13 日 10～12 時	令和７年１月８日 ９時半～10 時半
参加者	職員 27 名	利用者・職員 23 名	職員 23 名	職員９人

Ⅵ　理事会・評議員会

1 理事会

	日時	主な議案・報告
第１回	令和６年５月 23 日	（議案） 定款の一部改正について 令和５年度事業報告の承認について 令和５年度計算書類及び財産目録の承認について 令和６年度定時評議員会の招集について （報告） 執行理事報告について
第２回	令和６年11月28日	（議案） 評議員選任・解任委員会候補者について（補選） 給与規程の一部改正について 非常勤職員の就業規則の一部改正について 令和６年度補正予算（案）について （報告） 令和６年度上半期報告について 執行理事報告について
第３回	令和７年１月 30 日	（議案） 国分寺市障害者センター管理業務委託契約について （報告） 現行キャリアパス制度の見直しに向けた取り組みについて
第４回	令和７年３月 27 日	（議案） 社会福祉法人万葉の里　組織規程の一部改正について 社会福祉法人万葉の里　就業規則の一部改正について 社会福祉法人万葉の里　給与規程の一部改正について 社会福祉法人万葉の里　非常勤職員及び再雇用職員の賃金及び賞与の基準についての一部改正について 社会福祉法人万葉の里　育児休業及び育児短時間勤務等に関する規則の一部改正について 社会福祉法人万葉の里　介護休業等に関する規則の一部改正について 社会福祉法人万葉の里　令和６年度補正予算（案）について 社会福祉法人万葉の里　令和７年度事業計画（案）について 社会福祉法人万葉の里　令和７年度予算（案）について 令和７年度役員賠償責任保険の加入について （報告） 今後の予定

2 評議員会

	日時	主な議案・報告
第１回	令和６年６月 12 日	（議案）令和５年度計算書類及び財産目録の承認について （報告）令和５年度事業報告の承認について

令和6年度　国分寺市障害者センター　利用状況一覧

月	生活介護事業				自立訓練・機能訓練				自立訓練・生活訓練				就労継続支援B型				合計		
	太陽（定員：1日当り38人）				機能訓練はばたき（定員：1日当り6人）				生活訓練はばたき（定員：1日当り6人）				どーむ（定員1日当たり10人）						
	契約人数	開所日数	延利用日数	平均利用者数	契約人数	開所日数	延利用日数	平均利用者数	契約人数	開所日数	延利用日数	平均利用者数	契約人数	開所日数	延利用日数	平均利用者数	契約人数	延利用日数	平均利用者数
令和6年4月	48	21	761	36.2	3	5	14	2.8	6	16	62	3.9	15	25	163	6.5	72	1,000	49.4
令和6年5月	48	21	780	37.1	3	4	8	2.0	6	17	54	3.2	14	24	173	7.2	71	1,015	49.5
令和6年6月	47	20	726	36.3	3	4	8	2.0	6	16	50	3.1	14	25	167	6.7	70	951	48.1
令和6年7月	47	22	806	36.6	2	5	8	1.6	5	17	36	2.1	14	26	176	6.8	68	1,026	47.1
令和6年8月	47	21	762	36.3	4	4	13	3.3	6	17	44	2.6	14	26	160	6.2	71	979	48.3
令和6年9月	47	19	637	33.5	3	4	12	3.0	6	15	40	2.7	15	23	167	7.3	71	856	46.5
令和6年10月	47	23	802	34.9	3	5	15	3.0	8	18	64	3.6	15	27	195	7.2	73	1,076	48.6
令和6年11月	47	20	738	36.9	3	4	12	3.0	8	16	65	4.1	15	25	172	6.9	73	987	50.8
令和6年12月	47	20	719	36.0	3	4	12	3.0	9	17	72	4.2	15	24	170	7.1	74	973	50.3
令和7年1月	47	19	697	36.7	3	4	12	3.0	9	15	70	4.7	14	23	158	6.9	73	937	51.2
令和7年2月	47	18	650	36.1	3	4	10	2.5	8	16	68	4.3	14	22	128	5.8	72	856	48.7
令和7年3月	47	20	717	35.9	3	4	12	3.0	8	16	54	3.4	14	24	149	6.2	72	932	48.4
合計	566	244	8,795	432.5	36	51	136	32.15	85	196	679	41.69	173	294	1,978	80.7	860	11,588	587.0
平均	47.2	20.3	732.9	36.0	3.0	4.3	11.3	2.7	7.1	16.3	56.6	3.5	14.4	24.5	164.8	6.7	71.7	965.7	48.9
令和5年度合計	569	244	8,718	428.8	46	51	178	41.8	68	194	784	48.4	200	296	1,898	76.9	883	11,578	595.8
令和5年度平均	47.4	20.3	726.5	35.7	3.8	4.3	14.8	3.5	5.7	16.2	65.3	4.0	16.7	24.7	158.2	6.4	73.6	964.8	49.6

月	短期入所			日中一時支援			相談支援事業				
							相談				
	開所日数	延利用泊数	1日平均	延利用日数	1日平均	時間合計	開所日数	件数	新規（再掲）	1日平均	サービス利用計画作成
令和6年4月	30	28	0.9	40	1.3	179	27	958	8	35.5	90
令和6年5月	31	31	1.0	40	1.3	168	27	1011	9	37.4	78
令和6年6月	30	34	1.1	48	1.6	210	28	881	5	31.5	89
令和6年7月	31	42	1.4	49	1.6	231	28	1041	4	37.2	66
令和6年8月	31	40	1.3	57	1.8	279	27	894	6	33.1	60
令和6年9月	30	41	1.4	50	1.7	192	24	890	13	37.1	80
令和6年10月	31	42	1.4	51	1.6	197	28	982	9	35.1	91
令和6年11月	30	39	1.3	55	1.8	232	26	1091	5	42.0	69
令和6年12月	31	33	1.1	54	1.7	212	26	1280	7	49.2	74
令和7年1月	31	38	1.2	47	1.5	197	25	1163	7	46.5	62
令和7年2月	28	34	1.2	49	1.8	204	23	1315	11	57.2	66
令和7年3月	31	38	1.2	60	1.9	241	27	1102	12	40.8	69
合計	365.0	440.0	14.5	600.0	19.7	2542.0	316.0	12608	96.0	482.5	894
平均	30.4	36.7	1.2	50.0	1.6	211.8	26.3	1051	8.0	40.2	75
令和5年度合計	366.0	365.0	12.0	538.0	17.6	2281.0	317.0	10371	83.0	391.2	863
令和5年度平均	30.5	30.4	1.0	44.8	1.5	190.1	26.4	864	6.9	32.6	72

令和6年度KOCO・ジャム　利用状況一覧

月	短期入所			基幹相談支援事業				生活介護事業				居宅介護事業			ケアホームひかり				ケアホームこの葉			
	開所日数	延利用泊数	1日平均	開所日数	件数	新規	1日平均	契約人数	開所日数	延利用日数	1日平均	派遣時間	利用者数	稼働ヘルパー	開所日数	契約人数	延利用人数	1日平均	開所日数	契約人数	延利用人数	1日平均
令和6年4月	30	12	0.4	25	265	9	10.6	19	21	345	16.4	647.00	65	26	30	12	331	11.0	30	15	371	12.4
令和6年5月	31	13	0.4	24	360	16	15.0	19	21	343	16.3	716.00	70	27	31	12	331	10.7	31	15	371	12.0
令和6年6月	30	10	0.3	25	335	8	13.4	18	20	326	16.3	660.00	69	23	30	12	329	11.0	30	15	361	12.0
令和6年7月	31	12	0.4	26	377	14	14.5	18	22	360	16.4	696.50	67	24	31	12	340	11.0	31	15	366	11.8
令和6年8月	31	11	0.4	26	320	11	12.3	19	21	334	15.9	619.50	58	22	31	12	320	10.3	31	15	350	11.3
令和6年9月	30	10	0.3	24	299	12	12.5	19	19	290	15.3	626.50	67	25	30	12	318	10.6	30	15	353	11.8
令和6年10月	31	13	0.4	26	371	16	14.3	19	23	383	16.7	694.50	68	26	31	12	335	10.8	31	15	360	11.6
令和6年11月	30	16	0.5	24	402	18	16.8	18	21	342	16.3	663.50	67	26	30	12	328	10.9	30	15	352	11.7
令和6年12月	31	13	0.4	24	377	14	15.7	19	22	355	16.1	629.00	67	26	31	12	320	10.3	31	15	363	11.7
令和7年1月	31	16	0.5	23	320	11	13.9	19	20	345	17.3	671.00	66	22	31	12	311	10.0	31	15	346	11.2
令和7年2月	28	17	0.6	22	341	16	15.5	19	18	320	17.8	597.75	67	20	28	12	308	11.0	28	15	331	11.8
令和7年3月	31	15	0.5	25	292	14	11.7	19	21	378	18.0	616.50	66	23	31	12	345	11.1	31	15	363	11.7
合計	365	158	5.2	294	4059	159	166.1	225	249	4121	198.7	7,837.75	797.0	290.0	365	144	3916	128.8	365	180	4287	141.0
平均	30.4	13.2	0.4	24.5	338.3	13.3	13.8	18.8	20.8	343.4	16.6	653.1	66.4	24.2	30.4	12.0	326.3	10.7	30.4	15.0	357.3	11.7
令和5年度合計	366	106	3.5	293	3510	108	140.2	205	247	3595	174.7	8,066.8	794.0	259.0	366	144	3894	127.7	366	173	4163	136.5
令和5年度平均	30.5	8.8	0.3	24.4	292.5	9.0	11.7	17.1	20.6	299.6	14.6	672.2	66.2	21.6	30.5	12.0	324.5	10.6	30.5	14.4	346.9	11.4